



# 個人投資家向け会社説明会

2026年6月11日(木)

 三菱ガス化学株式会社

証券番号(東証プライム)

4182

1		<b>三菱ガス化学の概要</b>	.....	04
2		<b>三菱ガス化学の事業</b>	.....	19
3		<b>中期経営計画</b>	.....	29
4		<b>株主還元</b>	.....	46

# 脱酸素剤「エージレス®」



菓子などの食品に同封され、食品分野で長期間の「おいしさ」と「鮮度」の保持を実現。三菱ガス化学が世界に先駆けて開発し、世界シェアトップを誇る製品



## ■ 主な採用事例



とらや  
御代の春・あんやき



東京ばな奈「見つけたっ」



MGC

# 1. 三菱ガス化学の概要

社名 三菱ガス化学株式会社（登記社名:三菱瓦斯化学株式会社）

所在地 〒100-8324 東京都千代田区丸の内2-5-2 三菱ビル

創業 1918年(大正7年)1月15日

設立 1951年(昭和26年)4月21日

資本金 419.7億円(2026年3月末現在)

決算期 3月

従業員数 連結:8,319名、単体:2,562名(2026年3月末現在)

グループ会社数 115社(2026年3月末現在)

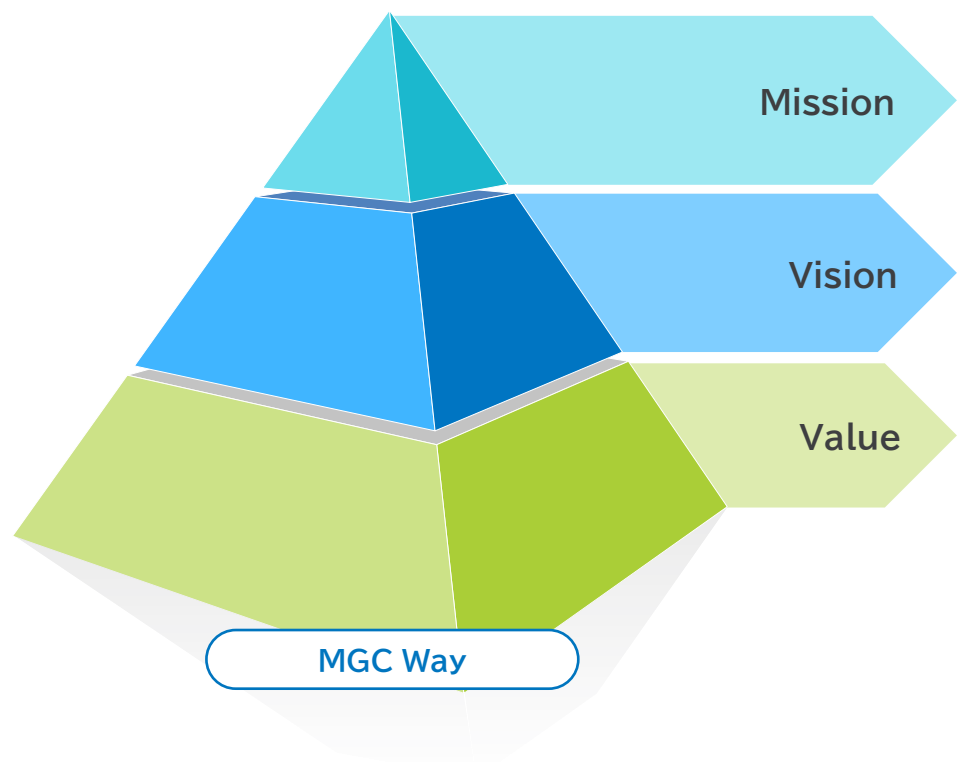
連結売上高 7,382億円(2025年度)



2050年の化学メーカーのあり方を見据えて、  
新しい事業の創出と既存事業の再構築により  
事業ポートフォリオを強靱化しながら、  
グループ全体の収益性を高めていきます

いさはや よしのり  
代表取締役社長 伊佐早 禎則

- MGCグループは、理念体系「MGC Way」のもと、経済的価値と社会的価値の両立に取り組み、持続可能な社会の実現に貢献していきます。



**社会と分かち合える価値の創造**

**化学にもとづく、特色と存在感あるエクセレントカンパニー**

### 行動理念

プロフェッショナル集団として

1. 変化を恐れぬ勇氣
2. 高い目標への挑戦
3. 目標達成への執念
4. 共感を広げるコミュニケーション

### MGC企業行動指針

### サステナビリティ推進指針

世界のグループ会社

115社



連結海外売上高比率

約68%



研究開発費

約266億円(連結)



連結従業員数

8,319名



自社開発技術による製品

90%以上(単体・生産品目ベース)



世界市場トップシェア製品数の比率

約40%



連結売上高

約7,382億円



連結営業利益

約452億円



株主還元

17期連続 累進配当

売上高営業利益率

6.1%(連結)



ROIC

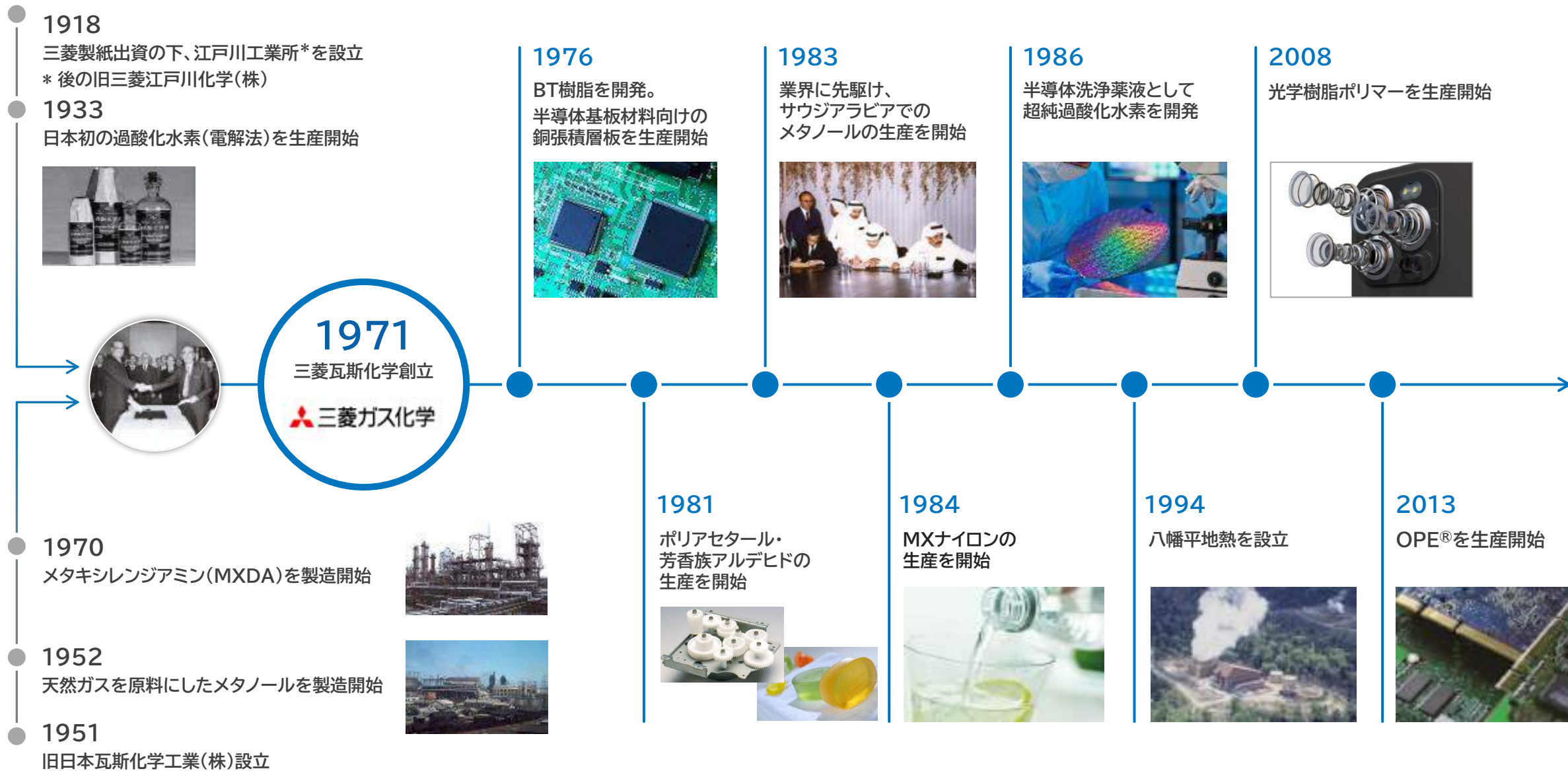
3.2%(連結)



総還元性向(現中計期間の方針)

50%





# 1 独自技術を生かし、幅広い分野でトップシェアを獲得

成長著しい半導体市場やスマートフォン市場で活躍するICT 3事業を中心に、幅広い分野でグローバルトップシェアを獲得



# 2 技術志向のDNA

製品の90%を自社開発技術で製造(生産品目ベース)

技術立社の源となる研究員やエンジニアなど技術系社員が多数在籍



# 3 カーボンニュートラルの実現に貢献する技術・製品

長年培ってきた天然ガス開発やメタノール製造の経験を生かし「カーボンニュートラル技術」の事業化を推進

CO<sub>2</sub>を原料としたメタノール製造や、CO<sub>2</sub>回収・貯留・利用の研究開発などに注力



– 独自技術を生かして、様々な市場で世界トップクラスのシェアを獲得



BT材料(半導体パッケージ基板材料)

**世界シェア 1位**



超純過酸化水素(半導体洗浄液)

**世界シェア 1位**



光学樹脂ポリマー

**世界シェア 1位\*1**



ポリアセタール(POM)

**世界シェア 3位**



メタノール

**生産能力 世界3位\*2**



メタキシレンジアミン(MXDA)

**世界シェア 1位**



MXナイロン

**世界シェア 1位**

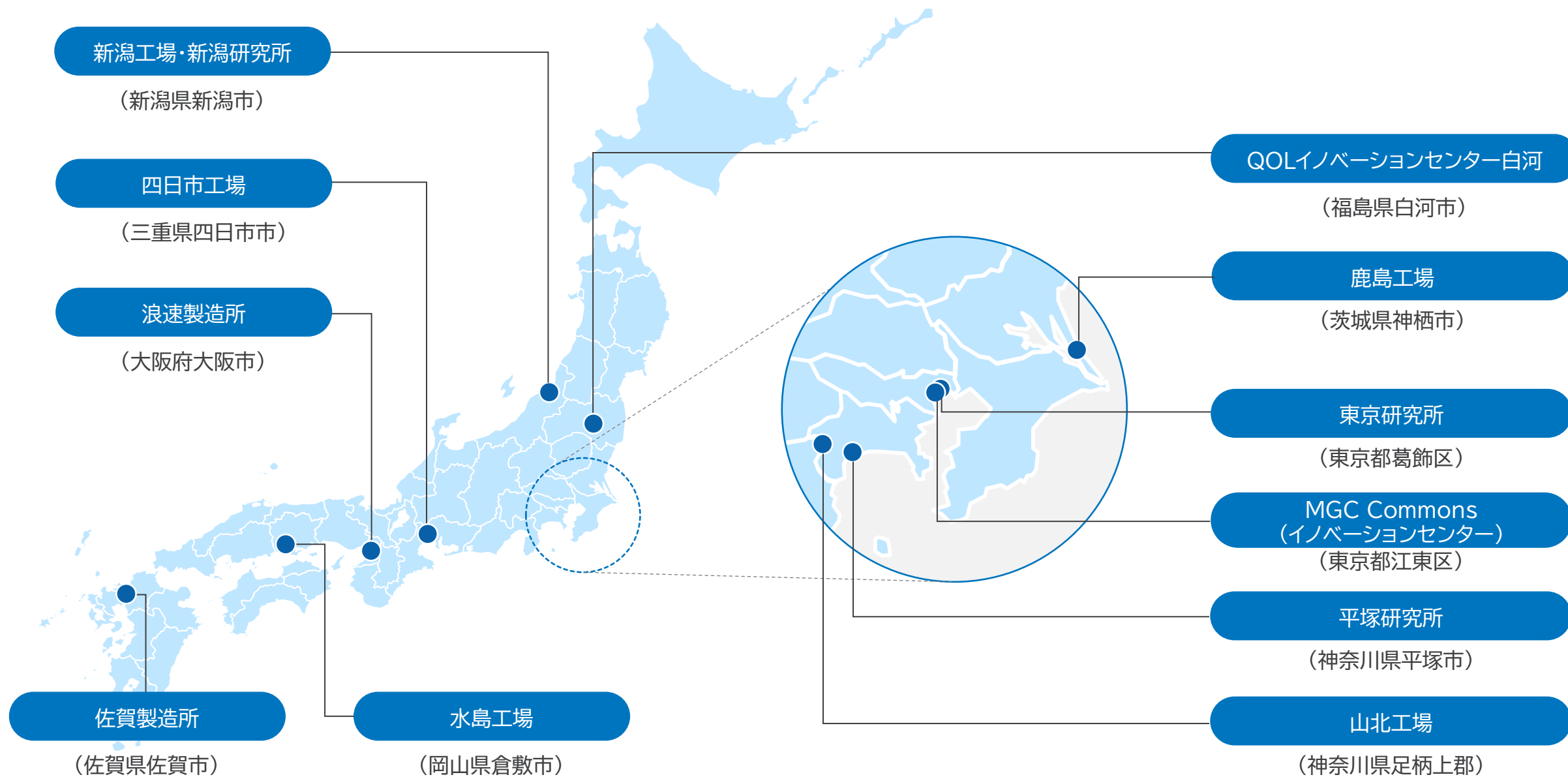


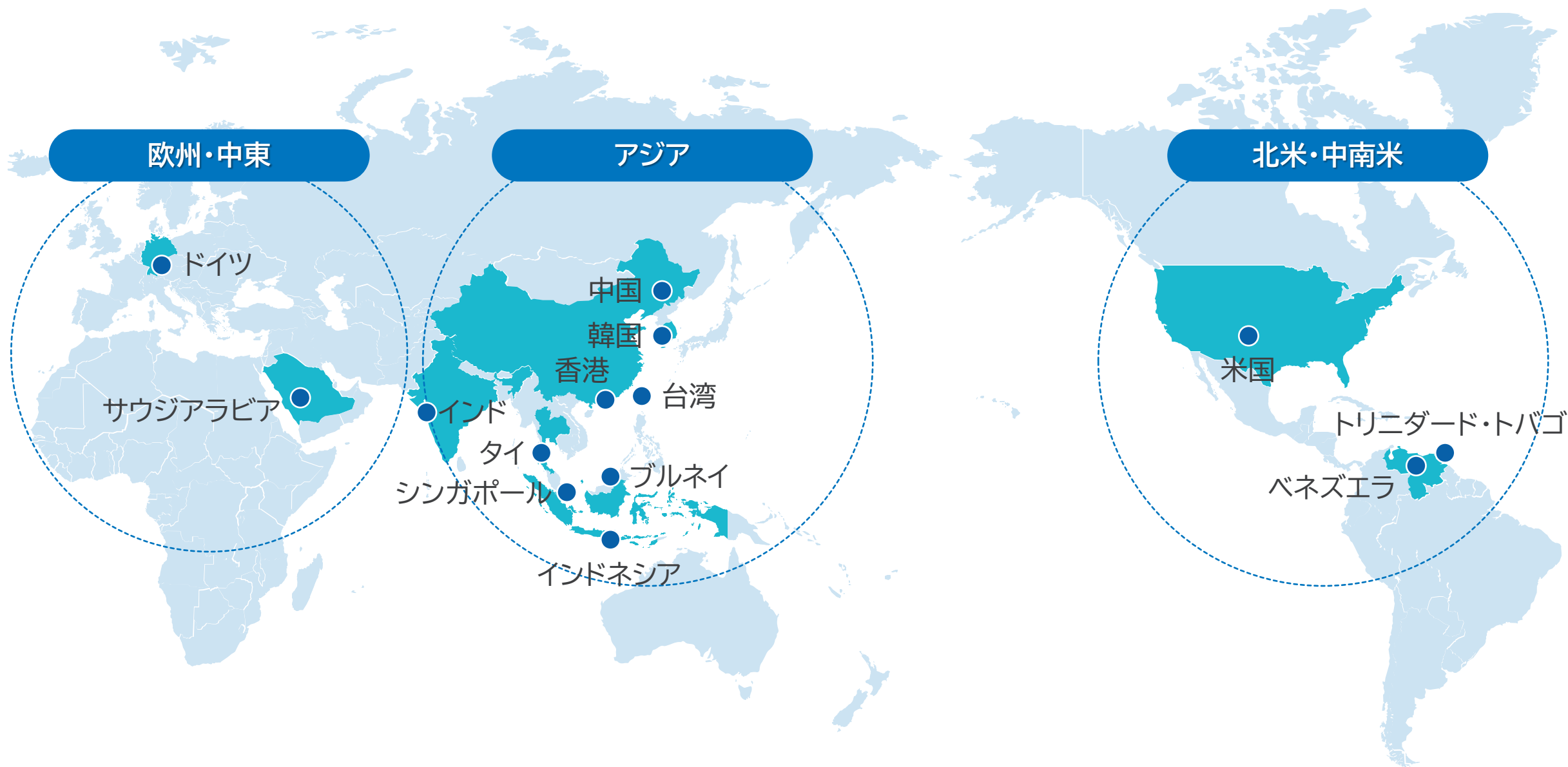
芳香族アルデヒド

**世界シェア 1位**

\*1 高屈折樹脂として

\*2 当社技術を用いた関係会社の総計(2025年度)





# カーボンニュートラルに貢献する製品・技術

- 当社ならではの特色ある技術を活用し、カーボンニュートラルに貢献する製品・技術の開発を推進
- 省エネ推進・新エネルギー導入、CCUS\*実装、原料転換などを進め、GHG排出量を削減

\*Carbon dioxide Capture, Utilization and Storage 二酸化炭素回収・有効利用・貯留。

### 環境循環型メタノールCarbopath™

The diagram illustrates the Carbopath process as a circular flow involving CO2 and H2O. The accompanying photo shows a large industrial facility with complex piping and structures.

### クリーンアンモニアの調達 (燃料、グリーン水素原料)

The photo shows an industrial facility with several tall chimneys and large storage tanks, likely involved in the production of clean ammonia.

### CO<sub>2</sub>利用ポリカーボネート

The photo shows several clear, curved polycarbonate lenses, demonstrating the use of CO2 in their production.

### ケミカルリサイクル

The photo shows two hands holding a glowing green recycling symbol, representing the chemical recycling process.

### CCS / ブルー水素

The diagram shows the CCS process, including CO2 capture and storage. The photo shows an industrial facility with a large stack of pipes and structures.

### メタノール:水素キャリア rDME(ジメチルエーテル) \* : グリーン燃料

\*renewable DME:バイオマスや産業廃棄物等を原料として製造されたDME

### エネルギー制御システム: 半導体材料

The photo shows a person's hands working on a green semiconductor chip, illustrating energy control systems.

### 全固体電池(EV向け)、 燃料電池(FCV向け)

The photo shows a solid-state battery component, which is used in electric vehicles (EV) and fuel cell vehicles (FCV).

### 高効率LNG(GTCC\*)発電 \*ガスタービン・コンバインド・サイクル

The photo shows a power plant facility, likely a gas turbine combined cycle (GTCC) power plant.

※福島ガス発電機提供

### 地熱発電

The photo shows a geothermal power plant facility, illustrating the use of geothermal energy.

※湯沢地熱機提供

### バイオマス原料転換

The photo shows biomass crops, including corn and soybeans, used as raw materials for conversion.

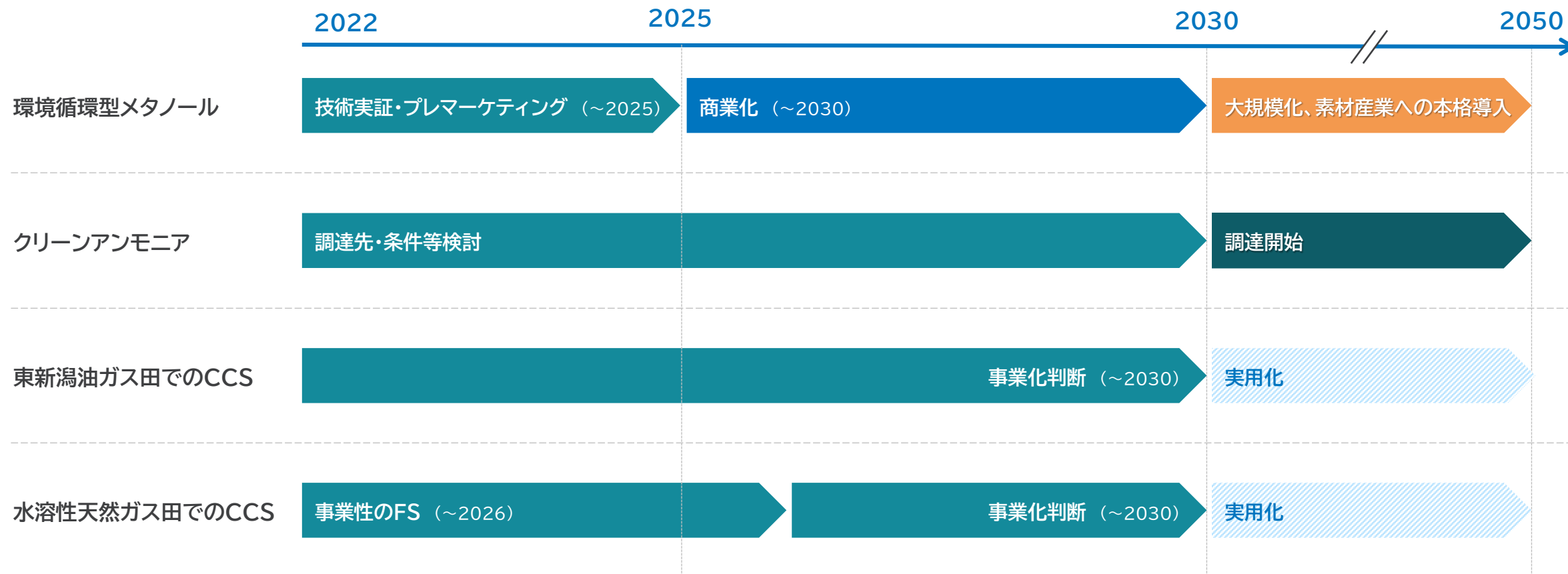
### 運転効率化: 自動車向けセンシングカメラ用 光学ポリマー

The photo shows the interior of a car, highlighting the use of optical polymers in sensor cameras for improved driving efficiency.

### ダイレクトエアキャプチャー (DAC):特殊アミン

The diagram illustrates the Direct Air Capture (DAC) process using special amines to capture CO2 from the air.

# 主要カーボンニュートラルアイテムの実装ロードマップ



# 2025年度実績・2026年度通期業績見通し

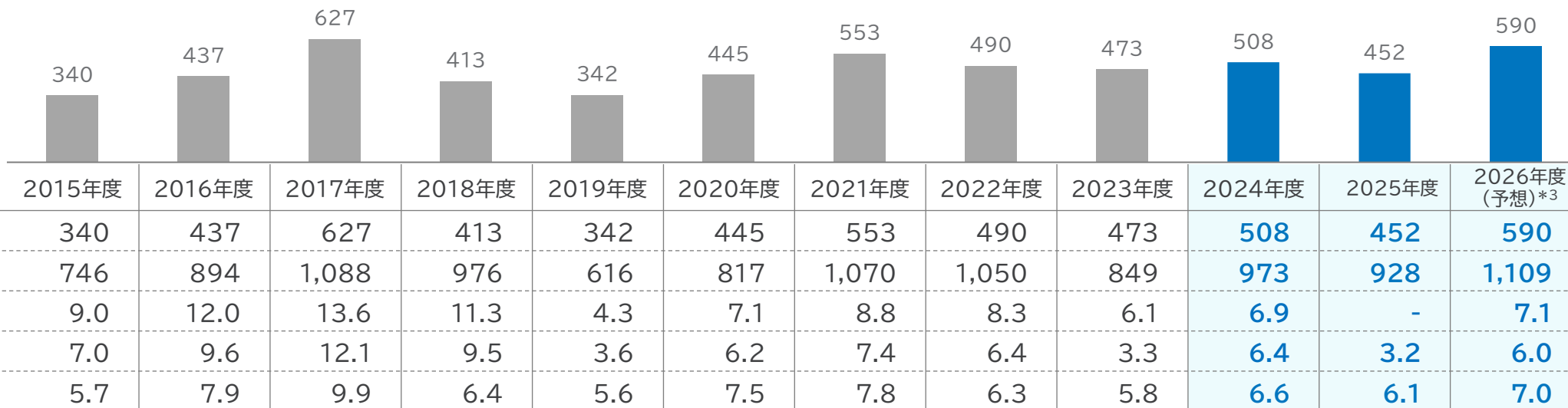


単位:億円	2024年度 実績	2025年度 実績	増減額	増減率(%)	2026年度 通期予想	増減	増減率(%)
売上高	7,735	7,382	▲353	▲4.6	8,400	+1,017	+13.8
営業利益	508	452	▲55	▲10.9	590	+137	+30.3
経常利益	603	519	▲83	▲13.9	660	+140	+27.1
親会社株主に関する当期純利益	455	▲403	▲858	-	460	+863	-
為替レート(JPY/USD)	153	151	-	-	155	-	-

※本ページ以下に記載の数値は、金額表示は単位未満切り捨て、%表示・一株当たり指標・業績前提は単位未満四捨五入で表記しております。

感応度(概算) 為替(USD) : 1円の円高(円安)で、営業利益5億円/年、経常利益4億円/年の減益(増益)  
 ※2026年度予想 原油(Dubai): 原油感応度は中東情勢の影響を受けて、改めて精査中  
 メタノール : メタノール市況\$1/MTの上昇(下落)で、持分法利益1億円/年の増益(減益)

## 営業利益の推移



\*1 EBITDA=経常利益+減価償却費+支払利息

\*2 ROIC=(営業利益-法人税等+持分法損益)/投下資本

\*3 2026年5月13日公表

## 2025年度に計上した主な減損損失

- オランダ MXDAの減損損失計上については、大規模となりましたが、事業環境の急速な変化を踏まえて決断し、損失額の最小化に努めるべく、迅速果敢な意思決定を行いました
- 2025年度のROE▲6.1%につきましては、これらの事業構造改革等に伴う複数事業での減損損失計上による影響が大きく、事業ポートフォリオの強靱化等の諸施策を進めることで、2026年度はROE7.1%を予想するなど、着実に業績改善を進めているものと認識しております

拠点・事業	内容	金額	概要
オランダ MXDA 生産子会社 (MGC Specialty Chemicals Netherlands B.V.)	減損損失	554億円	2026年2月に建設費の高騰、競争環境の激化等、事業環境が大きく変化していることを踏まえ、建設工事の中止を決定。同社における減損損失を計上
台湾 超純過酸化水素 生産子会社 (MGC Pure Chemicals Taiwan, INC.)	減損損失	106億円	原料過酸化水素プラント新設に伴う固定費増加と、顧客からの認定取得の遅れにより厳しい採算が継続しており、固定資産の減損損失を計上
中国 過酸化水素 生産子会社 (泰興菱蘇機能新材料有限公司)	減損損失	53億円	超純過酸化水素向け等の拡販遅延により厳しい採算が継続し、固定資産の減損損失を計上
当社 ポリカーボネート事業 (当社 鹿島工場等)	減損損失	53億円	重点管理事業であるPC事業構造改革の一環として、2028年3月を目途に鹿島工場のPCプラントの生産停止を決定。これに伴い、同事業に関連する固定資産について減損損失を計上
トリニダード・トバゴ メタノール生産会社 (Caribbean Gas Chemical Limited)	減損損失 (※持分法投資損失として営業外費用にて計上)	42億円	前回2023年度にて減損損失(74億円)を計上。その後も採算改善に至らず再度の減損損失計上となった

- 2025年度決算公表時点(5/13)から変更なし。中東情勢悪化に伴う影響は、メタノールのサウジアラビア拠点を除き、現時点では限定的
- 原燃料価格の高騰により製造コストは上昇傾向。採算悪化を避けるため販売価格への転嫁に取り組み中

グリーン・エネルギー &ケミカル	メタノール及び誘導品	<ul style="list-style-type: none"> <li>● サウジアラビア拠点からの製品輸送に制約が生じており、他拠点品の融通等により顧客への販売を継続するとともに、販売価格への転嫁に取り組み中</li> <li>● メタノール誘導品は、生産・販売ともに特段の影響は生じていない</li> </ul>
	キシレン分離及び誘導品 (含むMXDA系製品)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 原料キシレンは当面確保できる見通し</li> <li>● キシレン誘導品は、MXDA系製品を含め、生産・販売ともに特段の影響は生じていない</li> </ul>
機能化学品	無機化学品/光学材料/ 電子材料	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 当面の原料は確保出来ており、生産・販売に特段の影響は生じていない</li> </ul>
	エンジニアリングプラス チックス	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ポリカーボネート(PC)/ポリアセタール(POM)ともに当面の原料は確保出来ており、生産に特段の影響は生じていない</li> <li>● 主原料であるBPA/メタノール価格が高騰しており、販売価格への転嫁に取り組んでいる</li> </ul>

## 2025年度 貸借対照表



単位:億円	2025年3月末	2026年3月末	増 減
<b>流動資産</b>	4,602	<b>4,504</b>	▲ 97
現預金	682	<b>689</b>	+ 7
売掛債権	1,578	<b>1,495</b>	▲ 82
棚卸資産	2,075	<b>2,069</b>	▲ 5
その他	266	<b>249</b>	▲ 16
<b>固定資産</b>	6,594	<b>6,625</b>	+ 31
有形固定資産	3,665	<b>3,343</b>	▲ 322
無形固定資産	249	<b>235</b>	▲ 14
投資その他の資産	2,678	<b>3,046</b>	+ 367
<b>資産合計</b>	11,196	<b>11,130</b>	▲ 66

単位:億円	2025年3月末	2026年3月末	増 減
<b>負債</b>	4,223	<b>4,334</b>	+ 111
買掛債務	1,030	<b>919</b>	▲ 111
有利子負債	2,139	<b>2,292</b>	+ 152
その他	1,052	<b>1,122</b>	+ 69
<b>純資産</b>	6,973	<b>6,795</b>	▲ 178
株主資本	6,007	<b>5,412</b>	▲ 595
その他包括利益累計額	674	<b>1,051</b>	+ 377
非支配株主持分	291	<b>331</b>	+ 39
<b>負債・純資産合計</b>	11,196	<b>11,130</b>	▲ 66

自己資本比率 **58.1%** (2026年3月末時点)



MGC

## 2. 三菱ガス化学の事業

機能化学品事業部門

最終ユーザーに近い製品を提供、  
マーケットニーズと直結したビジネスを展開



超純過酸化水素(半導体洗浄液)



光学樹脂ポリマー



BT材料  
(半導体パッケージ基板材料)



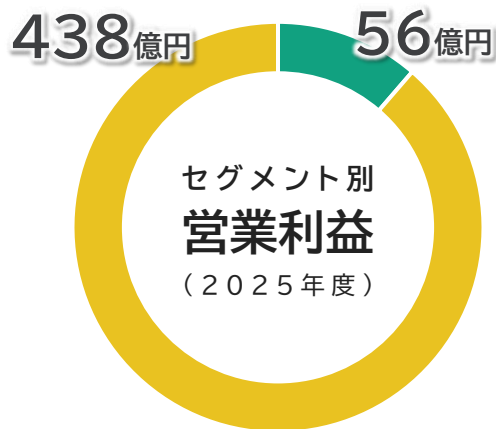
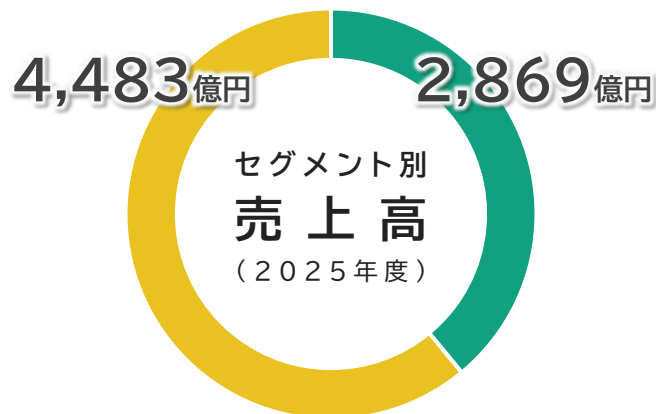
ポリアセタール(POM)



ポリカーボネート(PC)



脱酸素剤エージレス®



グリーン・エネルギー&ケミカル事業部門

天然ガスと混合キシレンを起点にした  
プロダクトチェーンを展開



メタノール



MXナイロン



地熱開発



芳香族アルデヒド



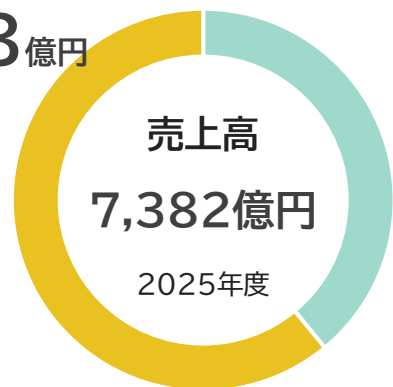
メタキシレンジアミン(MXDA)

※ セグメント別売上高、営業利益の円グラフは、その他の事業及び調整額を除いて掲載しています。

■ セグメント別売上高構成比

機能化学品事業

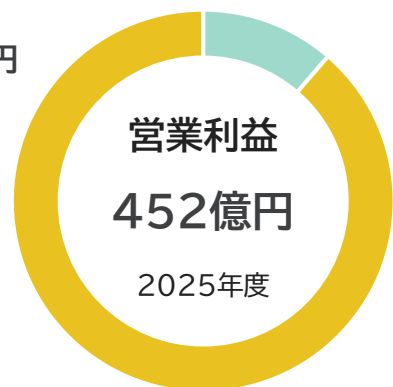
4,483億円



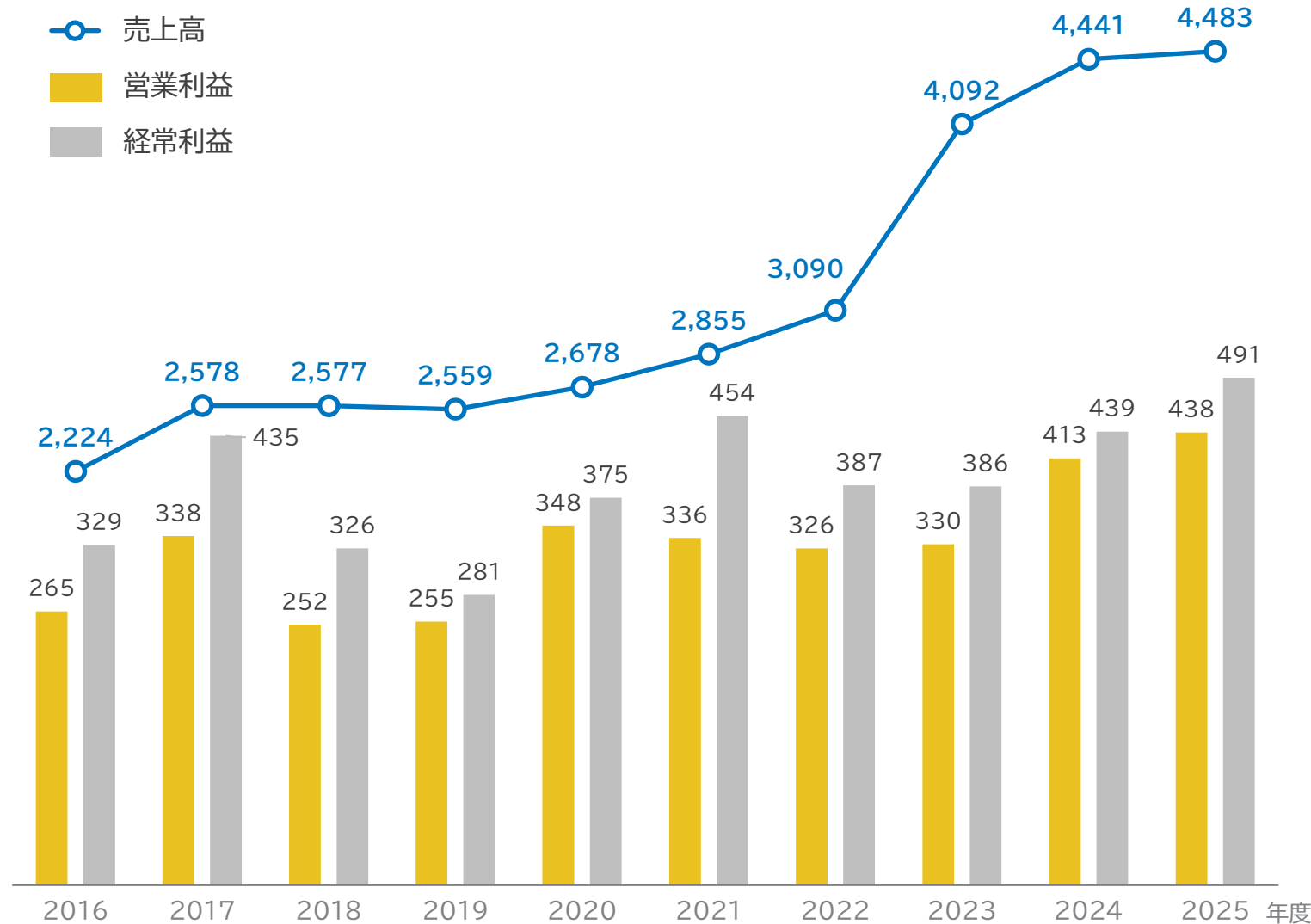
■ セグメント別営業利益構成比

機能化学品事業

438億円



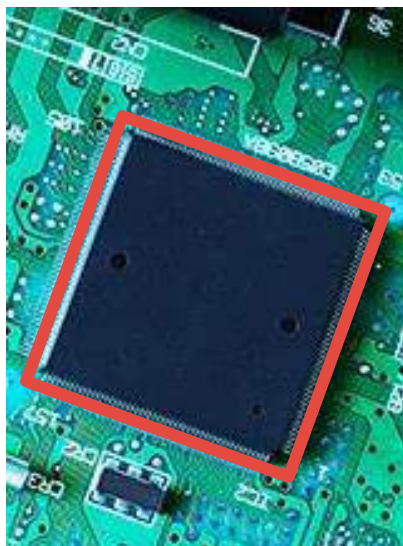
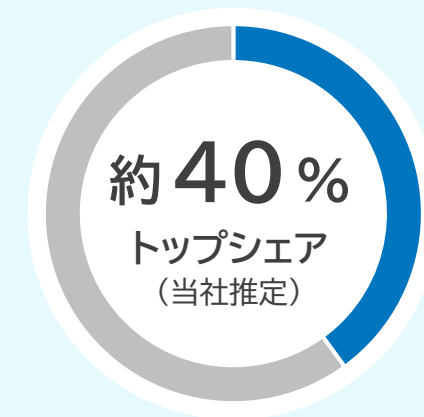
■ 機能化学品事業の業績推移(億円)



※ セグメント別売上高、営業利益の円グラフは、その他の事業及び調整額を除いて掲載しています。

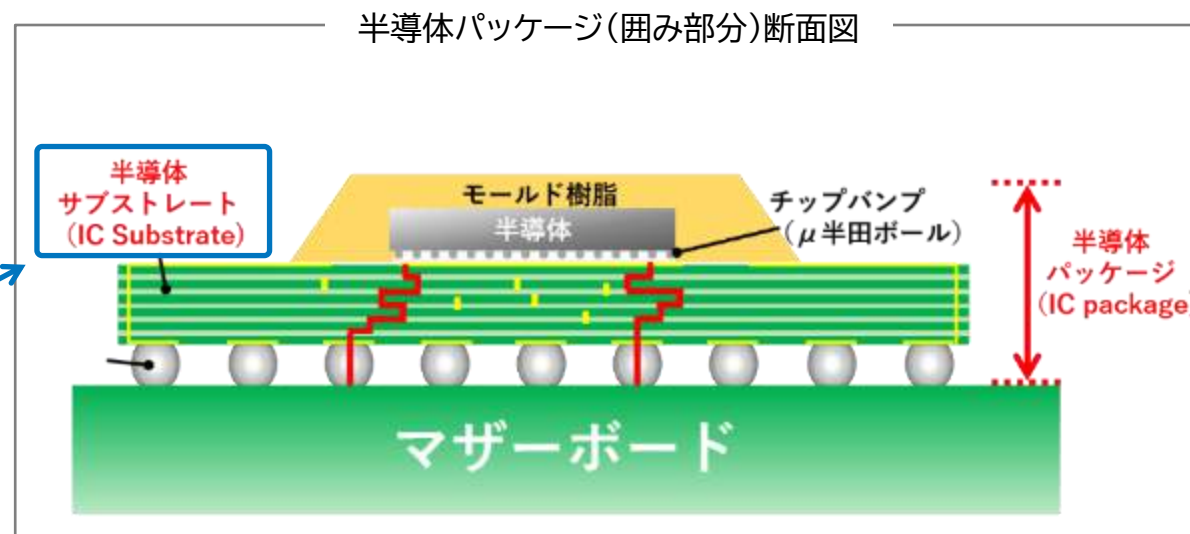
当社が開発したビスマレイミド・トリアジン(BT)樹脂というユニークな構造を有するプリント配線板用材料です。開発当時のプリント配線板材料は高価なセラミックが主流でしたが、BTはセラミックに比肩する耐熱性と電気特性を実現しました。このことが高く評価され、プリント配線板材料として世界中で使用されています。BTは今後も進化を続け、電子機器と情報技術の発展を支え続けていきます。

■ サブストレート基板材料における当社BT材料のシェア



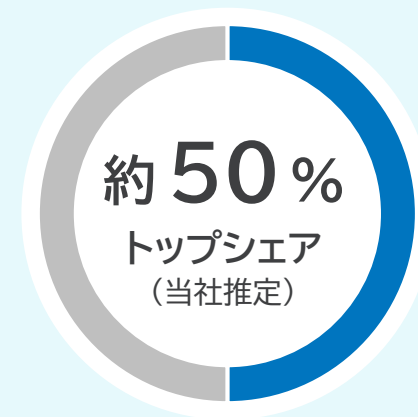
土台となるマザーボード(緑色の板)に各種の半導体チップとサブストレートが一体となったパッケージが搭載される(囲み部分)

半導体チップをパッケージする基板(サブストレート)にBT材料を使用

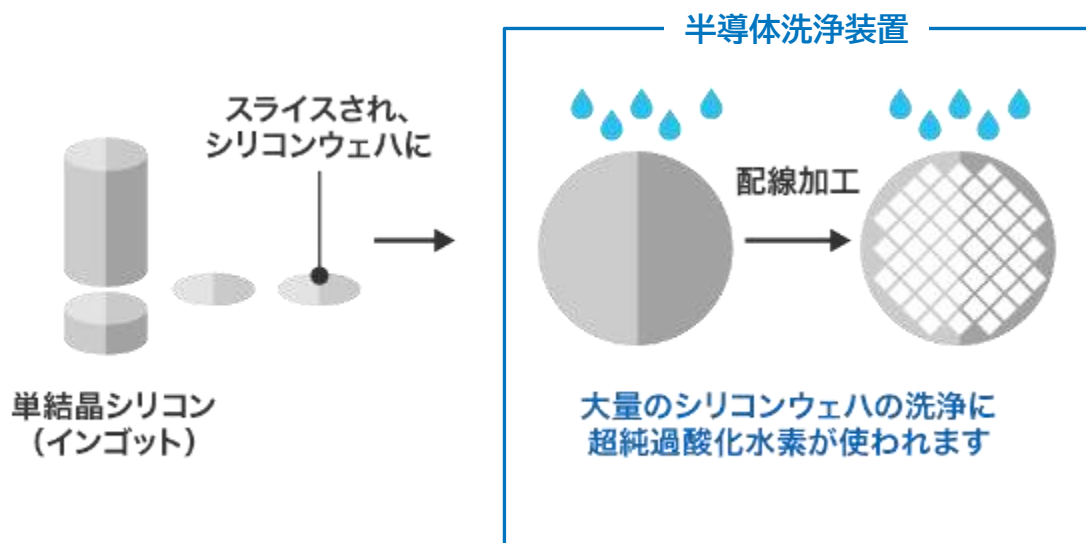


エレクトロニクスケミカルズ(EL薬品)とは半導体の洗浄工程やエッチング工程等で使用される電子工業用薬液です。当社が世界シェアNo.1を誇る「超純過酸化水素」や顧客ごとにカスタムした薬液「ハイブリッドケミカル」など、顧客密着型の生産・研究開発を展開し、高い競争力を誇っています。

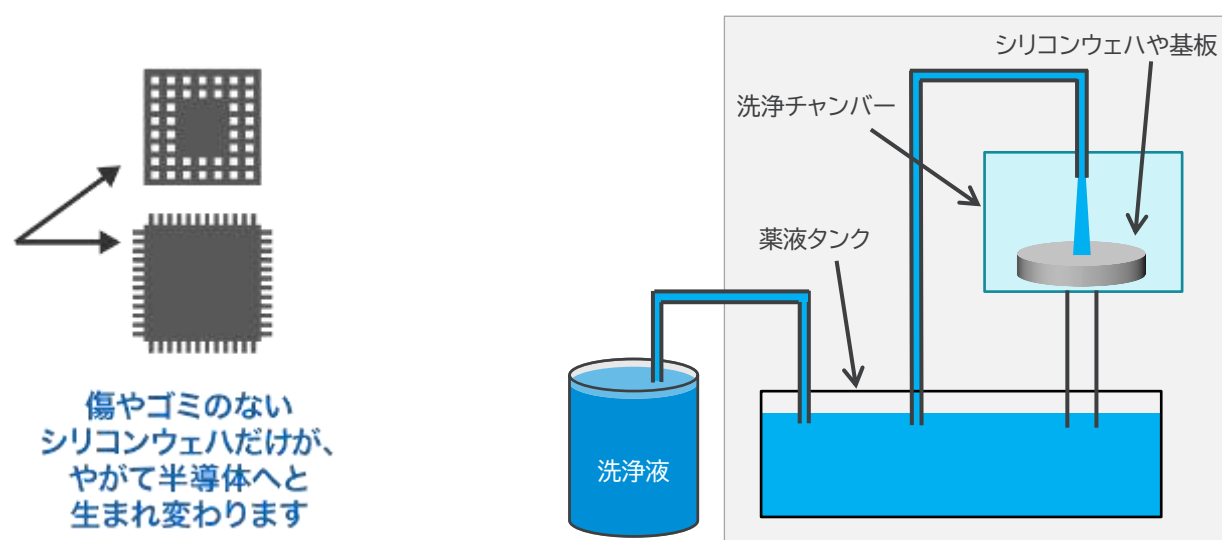
■ 超純過酸化水素の市場シェア



■ 半導体製造フロー



■ 半導体洗浄装置の構成模式図

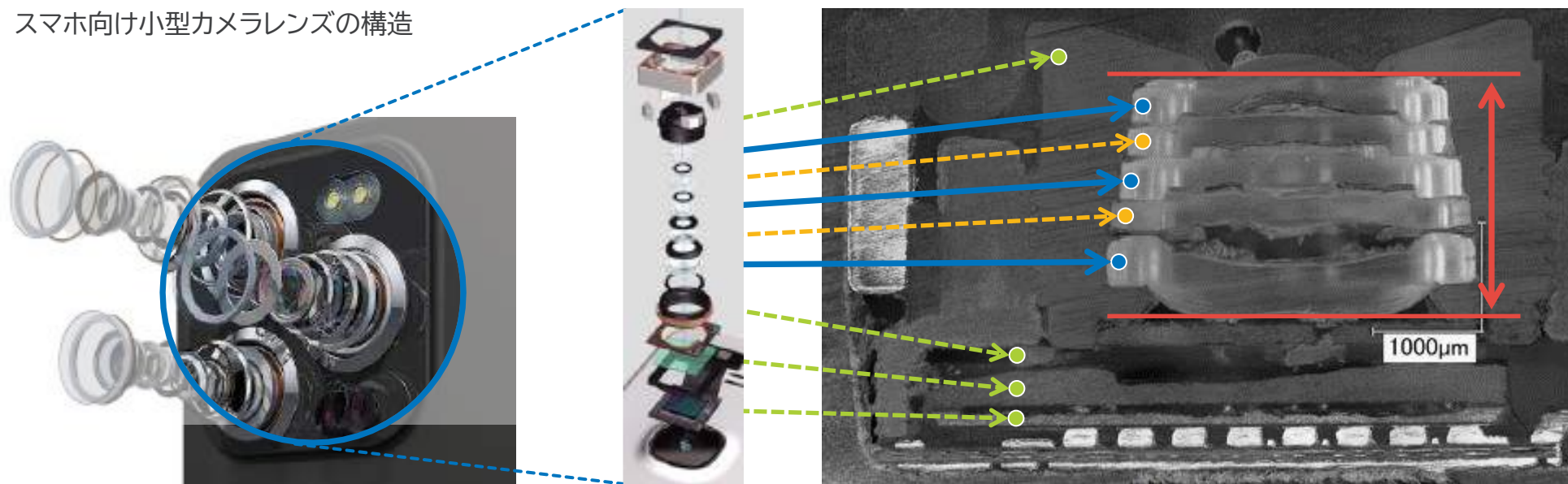


スマートフォンやVRデバイス、ドローンなどのカメラレンズ材料として広く採用されている光学樹脂ポリマー。レンズの薄型化や画像の鮮明化に貢献できる性能はもとより、きめ細やかなカスタマーサポートを通じて、顧客満足度の最大化を目指しています。現在は約80%がスマホ用途ですが、監視カメラや車載レーダーなど市場拡大が期待されます。



※高屈折樹脂として

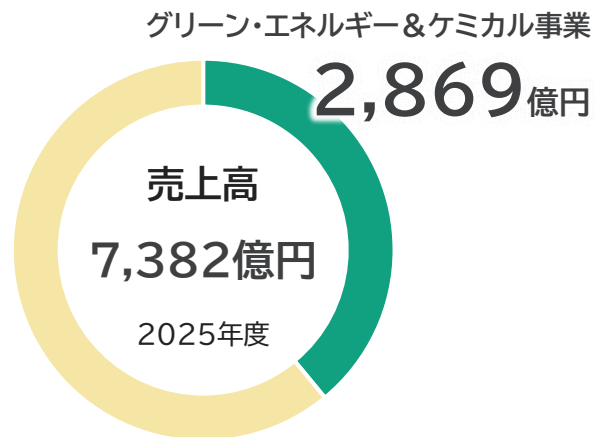
■ スマホ向け小型カメラレンズの構造



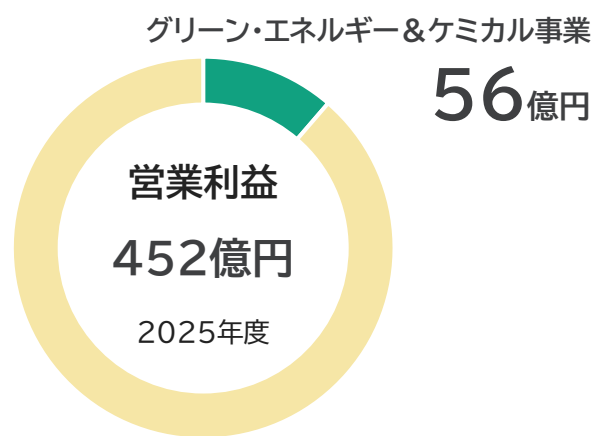
当社材料

- 高屈折材(凹レンズ)
- 低屈折材(凸レンズ)

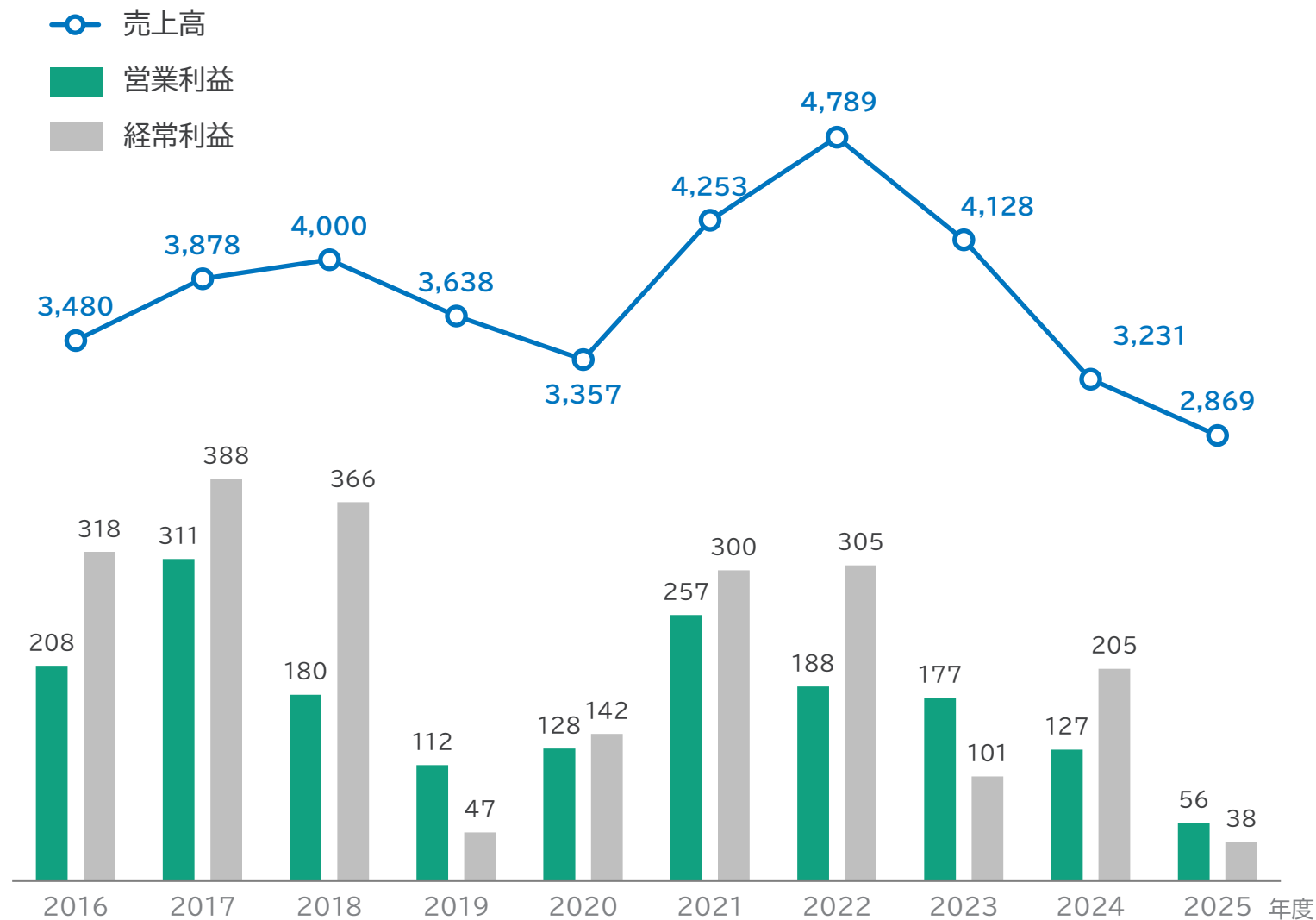
■ セグメント別売上高構成比



■ セグメント別営業利益構成比



■ グリーン・エネルギー&ケミカル事業の業績推移(億円)



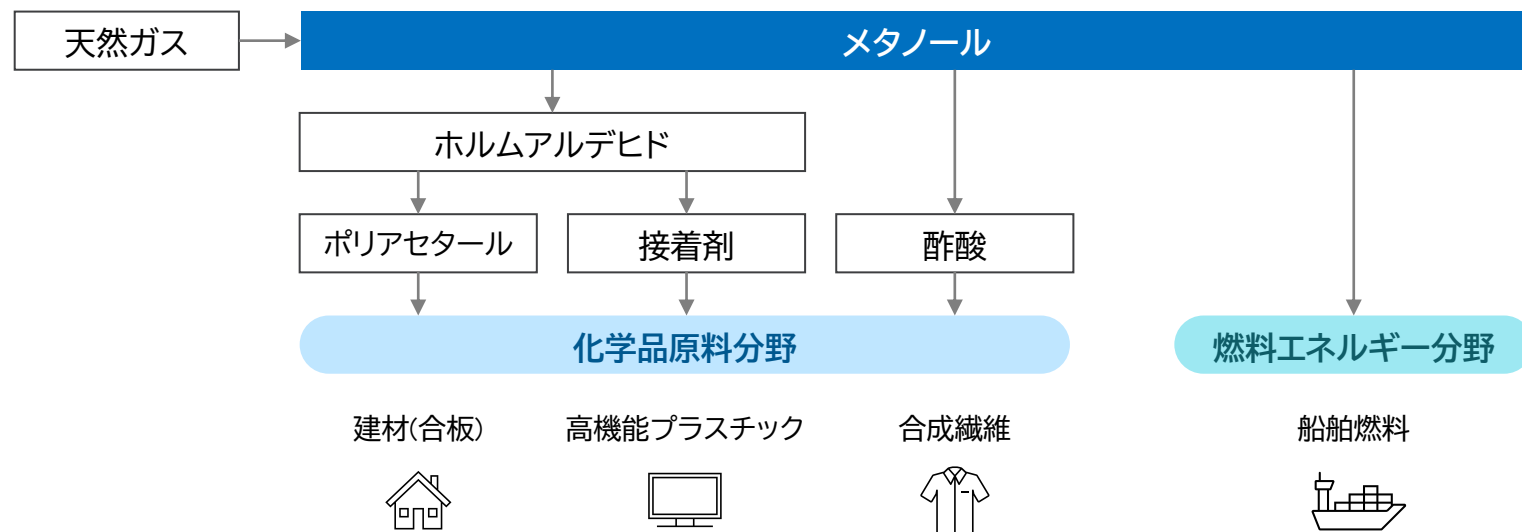
※ セグメント別売上高、営業利益の円グラフは、その他の事業及び調整額を除いて掲載しています。

1952(昭和27)年に日本で初めて、新潟県で自社採掘した天然ガスからメタノール合成を成功したところから始まります。独自開発の触媒と自社技術を用いた海外でのメタノール生産、ロジスティクス、販売、誘導品の製造に至るまで、競争力のあるメタノールバリューチェーンを展開する世界唯一のメタノール総合メーカーです。



※2025年度実績として生産能力世界3位  
(当社技術を用いた関係会社の総計)

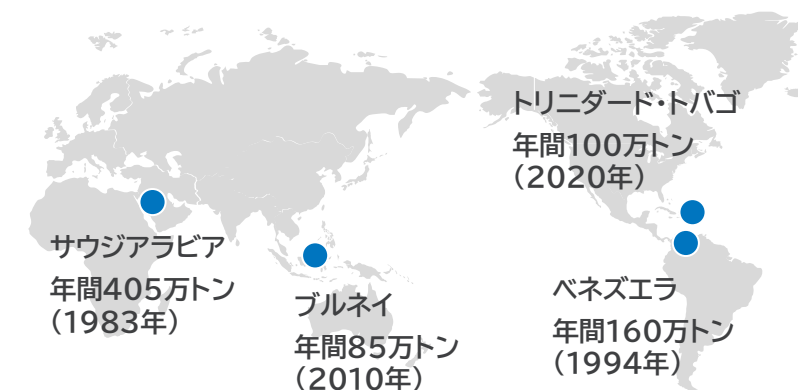
■ メタノールの用途



■ メタノールの生産拠点

合計:年間750万トン

※()内は操業開始年



– 当社グループでは、CO<sub>2</sub>や廃棄物等から環境循環型メタノールを介してエネルギーや素材を生み出すことを目指す環境循環型プラットフォーム「Carbopath™(カーボパス)」の構築を推進しており、産業横断的な提携を進めています。

## ■ 構想のイメージと取り組み (主な共同研究・事業化検討プロジェクト)

### 回収CO<sub>2</sub>

国内

国内初

#### ●地球環境産業技術研究機構 (RITE)

大阪・関西万博会場内のDAC装置で大気から回収したCO<sub>2</sub>を利用した包括的CCUSの取り組み。回収CO<sub>2</sub>を原料にメタノール製造を実施(2025年9月)



### 産業間連携による社会実装推進

#### ●JFEスチール・三菱ケミカル

水島コンビナートにおける炭素循環社会の実現に向けたサプライチェーンの実証(2025年3月)

#### ●三菱UFJ銀行

環境循環型社会実現に向けた協議に関する覚書を締結(2024年12月)

### メタノール輸送船

国内初

#### ●横浜市、マースクAS社など6社

横浜港におけるグリーンメタノール利用促進に向けての覚書を締結。日本における船舶へのメタノール燃料供給拠点の実現と普及促進(2023年12月)

#### ●商船三井

新造メタノール二元燃料外航船「第七甲山丸」が竣工(2025年5月)



#### ●トヨタ海運(トヨタグループの海運会社)

国内自動車運搬船向けにメタノール燃料を供給(2024年6月)



### 将来に向けた新たな資源

#### ●Transition Industries社

年間100万トン規模の低炭素メタノールの引取に関する売買契約を締結(2025年11月)

#### ●Gold Hydrogen Limited社

オーストラリアで天然水素及びヘリウムを開発を推進している同社への出資。メタノール事業への展開も含めて協業可能性を追求(2025年7月)



豪州における掘削工事風景

### 廃棄物・未利用資源

#### ●新潟県

未利用消化ガスを原料としたバイオメタノール製造(2024年3月)

国内初

#### ●TREホールディングス

木質バイオマスおよび廃棄物由来のグリーンメタノール事業化検討(2025年5月)

国内初

### エネルギー利用・水素キャリア

### 水素キャリア・利用

#### ●横浜市、出光興産、商船三井、国華産業など5社

横浜港にて、国内初となる錨地でのShip to Shipによるメタノールバンカリングを実施。当社新潟工場生産した国産のバイオメタノールも燃料として一部供給(2026年2月)

#### ●Methanol Reformer社 Element1社

水素社会に向けたメタノールによる水素ソリューションの開発・商業化に向けた提携(2025年2月)

#### ●富士電機

メタノールを水素キャリアとする燃料電池システムの実証に向けた検討を開始(2025年8月)

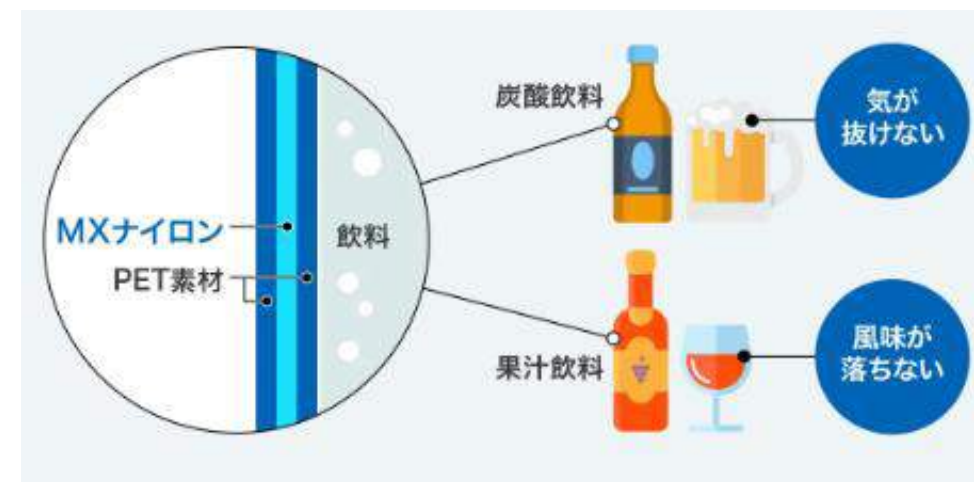
メタキシレンジアミン(MXDA)は室温では無色液体で、骨格にベンゼン環を取り込んだ脂肪族ジアミンです。この独特の化学構造により、エポキシ、ポリアミド及びウレタン用途で使用される場合、独自の性能を発揮します。MXDAは30年以上にわたり、世界中で塗料用エポキシ硬化剤として使用されております。MXDAを使用したエポキシ硬化剤は低温硬化性を特徴とし、塗料の耐薬品性、防蝕性を向上させます。



主に橋や船舶、風力発電機のブレードなどの耐候性が求められる塗料や補修剤、他に床材としても使用される



MXDAの派生品である「MXナイロン」も世界シェアNo.1であり、PETボトル容器の原材料として使用される。





# 3. 中期経営計画 Grow UP 2026

(当初計画および進捗状況)

# 2030年ありたい姿

- 独自性・存在感のある事業に磨きをかけ、事業を通じた社会課題の解決に貢献
- 2030年には、売上高1.2兆円、営業利益1,200億円、営業利益率10%以上、ROE 12%以上、ROIC 10%以上を目指す

**サステナビリティ経営を支える経営資源**

**技術基盤**  
多様な自社開発技術

**企業風土**  
起業家精神に基づいた進取の気性

**パートナーシップ**  
様々なパートナーとの価値協創

**安全文化**  
事業活動の礎

**サステナビリティ経営の推進  
= 社会的価値と経済的価値の両立**

**事業ポートフォリオの強靱化**

**Uniqueness & Presence**

**サステナビリティ経営の推進**



**財務目標**

売上高  
**1.2兆円**

営業利益  
**1,200億円**

営業利益率  
**10%以上**

ROE **12%以上**      ROIC\* **10%以上**

**非財務目標**

GHG排出量  
**39%以上削減 (2013年度比)**

Sharebeing 製品売上高 (環境貢献製品売上高)  
**5,000億円以上**

\*ROIC = (営業利益 - 法人税等 + 持分法損益) / 投下資本

**事業を通じた社会課題の解決**

**ICT・モビリティ社会発展**

**エネルギー・気候変動問題解決**

**医療・食料問題解決**

中計期間 :2024年度~2026年度の3年間

位置づけ :Grow UP 2023の後編・2030年ありたい姿の実現に向けた助走期間  
前中計の目標に再チャレンジ、「化学に基づく、特色と存在感あるエクセレントカンパニー」へ更なる高みを目指す  
キーワードは「Uniqueness & Presence」

目標 **1** 事業ポートフォリオの強靱化

施策1

「Uniqueness & Presence」へのフォーカス

施策2

イノベーションによる新しい価値の創造

施策3

重点管理事業の再構築

目標 **2** サステナビリティ経営の推進

施策1

カーボンニュートラル実現に向けた取り組みの加速

施策2

人的資本経営の充実

施策3

マテリアリティマネジメントの推進

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた企業価値向上策の推進

「Grow UP 2026」における事業ポートフォリオ区分  
 経済的価値・事業期待性・社会的価値の3つの視点をもとに、各事業を総合的に評価

- これまでの差異化事業を「Uniqueness & Presence事業」と改称
- 「伸びる」「勝てる」「サステナブル」の観点で優れ、社会的価値と経済的価値を両立して持続的に成長できる事業と再定義

事業期待性評価(伸びる)

経済的価値評価(勝てる)

社会的価値評価(サステナブル)

市場シェア、市場成長率等の観点から事業期待性を評価

point

- ・大きな潜在市場の存在
- ・新規用途・製品の創出やM&A等による新たなマーケットの創出

ROIC、EBITDAの基準を設定し、事業の優位性を評価

point

- ・強い価格交渉力を保持できる製品開発力
- ・他の追随を許さない競争優位性の確立

中長期的に「サステナブルな事業」であるか、GHG排出量、サステナビリティ関連の取り組み状況等から評価

point

- ・社会課題の解決に貢献する(気候変動対策と環境負荷軽減)社会的価値の創出

上記3つの視点から、各事業を総合的に評価

経営資源を優先的に配分すべき事業・再構築を検討すべき事業等を抽出

Grow UP 2026スタート時点の事業ポートフォリオ区分

Uniqueness & Presence = 差異化

- 電子材料
- 無機化学品(EL薬品等)
- 光学材料
- メタノール
- エネルギー資源・環境事業
- POM
- MXDA/芳香族アルデヒド
- ポリマー材料

基盤

- メチルアミン・アンモニア系
- MMA系
- ホルマリン・ポリオール系
- 脱酸素剤

新規・次世代

- ライフサイエンス系
- 新規・次世代製品

重点管理

- PC系
- キシレン分離/誘導品

ICT3事業(収益ドライバー)

# 主要投融資案件の進捗およびGrow UP 2026の投融資計画

- 前中計では計画2,400億円に対し、約2,100億円の投融資を実施
- 今中計でも高水準の投融資を継続。3年間合計では約3,000億円を計画し、U&P事業への集中投資を推進

## U&P事業の主要な投資案件

Grow UP 2023			Grow UP 2026
2021年度	2022年度	2023年度	2024年度～
		半導体パッケージ用BT材料 生産能力増強(タイ)	ICT3事業
		光学樹脂ポリマープラント増設(鹿島)	ICT3事業
		EL原料過酸化水素工場新設(中国)	ICT3事業
		EL超純過酸化水素工場新設(中国)	ICT3事業
		芳香族アルデヒドプラント増設(水島)	
		超純過酸化水素 生産能力増強(韓国、天安)	ICT3事業
		水溶性天然ガス・ヨウ素の新規開発(新潟・西蒲原)	
		超純過酸化水素 生産能力増強(米国・オレゴン州)	ICT3事業
		超純アンモニア水 生産能力増強(シンガポール)	ICT3事業
		光学樹脂原料モノマープラント新設(新潟)	ICT3事業
		EL原料過酸化水素工場新設(台湾)	ICT3事業
		MXDA生産設備新設(オランダ)	
		超純過酸化水素 生産能力増強(米国・テキサス州)	ICT3事業
		超純アンモニア水 生産能力増強(米国・テキサス州)	ICT3事業
		半導体パッケージ用BT材料 生産能力増強(タイ)	ICT3事業
		レンズモノマー製造プラント新設(四日市)	ICT3事業
		水溶性天然ガス・ヨウ素の新規開発(新潟・東新潟)	
		超純過酸化水素 生産能力増強(米国・アリゾナ州)	ICT3事業
		環境循環型メタノール製造設備新設(国内)	
		超純アンモニア水 生産能力増強(新潟)	ICT3事業
		超純過酸化水素 生産能力増強(佐賀)	ICT3事業



## 1 成長が期待される「Uniqueness & Presence(U&P)事業」を中心に大型投資を推進

- ✓ 半導体パッケージ基板材料(BT材料)タイ工場の増強完了、拡販フェーズへの早期移行に貢献
- ✓ 半導体向け薬液(EL薬品)の生産能力を増強中。投資成果の刈り取りは次期中計期間にずれ込み

## 2 事業構造改革を推進も、中計目標達成へのハードルは高い状況

- ✓ 欧州・中国経済の停滞、競争環境の激化、投資成果の刈り取り遅れ等により、中計目標達成は高いハードルに
- ✓ 2025年度はROIC、営業利益率が低下。BMU\*単位で「利益率」「ROIC」を意識した経営を徹底

\* Business Management Unit

## 3 社長をトップとする「事業ポートフォリオ強靱化タスクチーム」を立ち上げ、事業構造改革を推進

- ✓ 欧州MXDAプロジェクト中止を決断。タスクチーム主導で「抜本的な収益改善策」を集中して議論・実行
- ✓ 鹿島工場のポリカーボネート(PC)生産停止を決定
- ✓ 非事業用資産の売却、政策保有株式の縮減等を推進(2025年度業績改善効果:約150億円)

「変革」を加速、成果創出フェーズへ確実に移行

「利益率」「ROIC」を意識した経営を徹底し、「事業ポートフォリオ変革」を断行  
これまでの大型投資を梃子にAI・半導体需要を着実に捉え、確固たる成長軌道へ

## 中期経営計画における全社計数目標の進捗状況

- 電子材料は好調も、先端半導体を除く半導体市場の成長遅れや欧州・中国市場の低迷等により、中計目標達成のハードルが高い状況
- 欧州MXDA減損損失計上等により、2025年度は当期純損失に

	Grow UP 2026			Grow UP 2026 2026年度目標
	2024年度実績	2025年度実績	2026年度予想	
売上高	7,735億円	7,382億円	8,400億円	8,500億円
営業利益	508億円	452億円	590億円	850億円
営業利益率	6.6%	6.1%	7.0%	10%以上
経常利益	603億円	519億円	660億円	950億円
当期純利益	455億円	▲403億円	460億円	—
EBITDA	973億円	928億円	1,109億円	1,500億円
ROE	6.9%	-	7.1%	9%以上
ROIC	6.4%	3.2%	6.0%	8%以上

## 「事業ポートフォリオの強靱化」に向けた施策の進捗状況

- 「Uniqueness & Presence(U&P)」事業への積極投資を推進も、投資成果の刈り取りが遅れ。U&P事業でも明暗が分かれる
- 重点管理事業について、スピード感のある更なる対策が必要な状況

### 施策1

#### 「Uniqueness & Presence」へのフォーカス

- U&P事業で明暗が分かれる(電子材料・光学材料は好調も、EL薬品・MXDA等是不調)
- 大型投資を実行も、欧州MXDA等で減損損失を計上

### 施策2

#### イノベーションによる新しい価値の創造

- MGC戦略研究領域(モビリティ、ICT、医・食)を中心に、研究開発を強化
- 一方、新規事業・製品の創出が遅れている課題は継続

### 施策3

#### 重点管理事業の再構築

- PC系事業:シートフィルム生産拠点の集約化・鹿島工場の生産停止決定等の合理化策を実施も、MEP\*再編効果の発現は途上で低収益が継続
- キシレン分離/誘導品事業:OX系チェーンから撤退。  
欧州MXDA中止により、MXチェーン全体の収益改善施策を検討中

\* 三菱エンジニアリングプラスチックス社

「事業ポートフォリオの強靱化」に向け、スピード感ある取り組みを推進

－ 急速な外部環境の変化・減損損失計上を受け、「事業ポートフォリオ強靱化タスクチーム」による構造改革を推進中

## 現状の課題認識

- 半導体市場拡大の見通しは不変も、欧州・中国経済の停滞、汎用分野を中心とする競争環境の激化等、外部環境は厳しい状況
- 減損損失の計上により、2025年度の当期純利益が大幅に悪化



現状の延長線上でない、  
抜本的な構造改革が必要

## 事業ポートフォリオ 強靱化タスクチーム

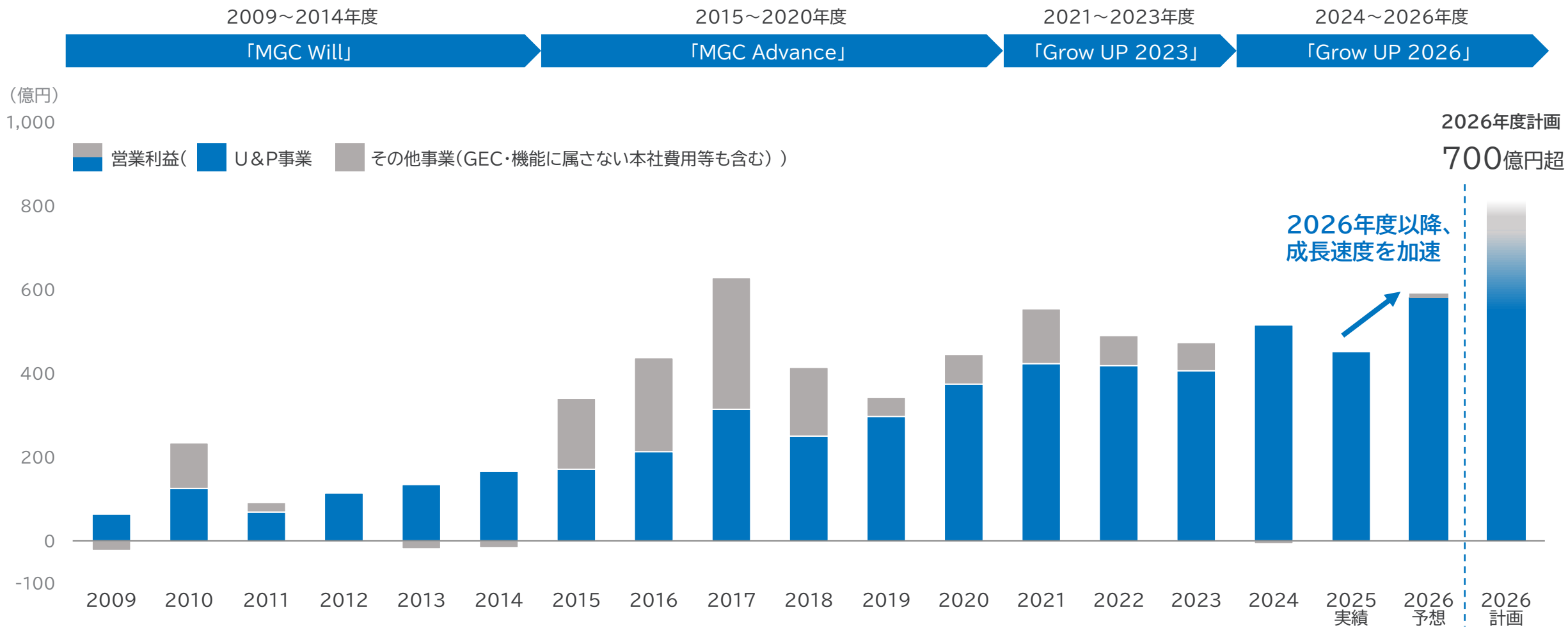
全社横断的な業績改善・  
事業構造改革を推進

## 業績改善策の推進状況

- ✓ 聖域なきコスト削減、アセットライト化の更なる推進（福利厚生施設を含む非事業用資産の売却）、政策保有株式の一段の縮減  
→ 2025年度:約150億円の業績改善効果。  
2026年度も政策保有株式の縮減等を推進
- 重点管理事業(PC系、キシレン分離/誘導品):  
スピード感を持った取り組みを推進  
→ 鹿島工場PC生産停止、協業先からのPC引き取り契約終了を決定。欧州MXDAの中止を決断。ベストオーナー視点で、更なる構造改革を進める
- 投資規律の強化  
→ 規律ある成長投資を推進すべく、資源配分管理の強化や投資採算性指標の見直しなど投資制度の改訂に取り組む

# Uniqueness & Presence(U&P)事業の営業利益推移

- 電子材料は好調も、EL薬品の拡販遅れなどにより中計目標(700億円超)達成のハードルが高まる
- AI・半導体市場の伸長を確実にとらえ、2026年度以降、成長速度を加速



## 施策1: Uniqueness & Presence事業の注力戦略①:ICT3事業の進展

- 将来を見据えた大型投資(電子材料:タイ工場増設、EL薬品:国内外での新增設、光学材料:国内新設)が進捗
- BT材料、OPE<sup>®</sup>、光学材料の拡販で右肩上がり成長中も、EL薬品の遅れで目標値には若干未達の見通し

### 電子材料



- BT材料:タイ工場増設完了・拡販に貢献
- OPE<sup>®</sup>:需要は引き続き堅調

### 光学材料



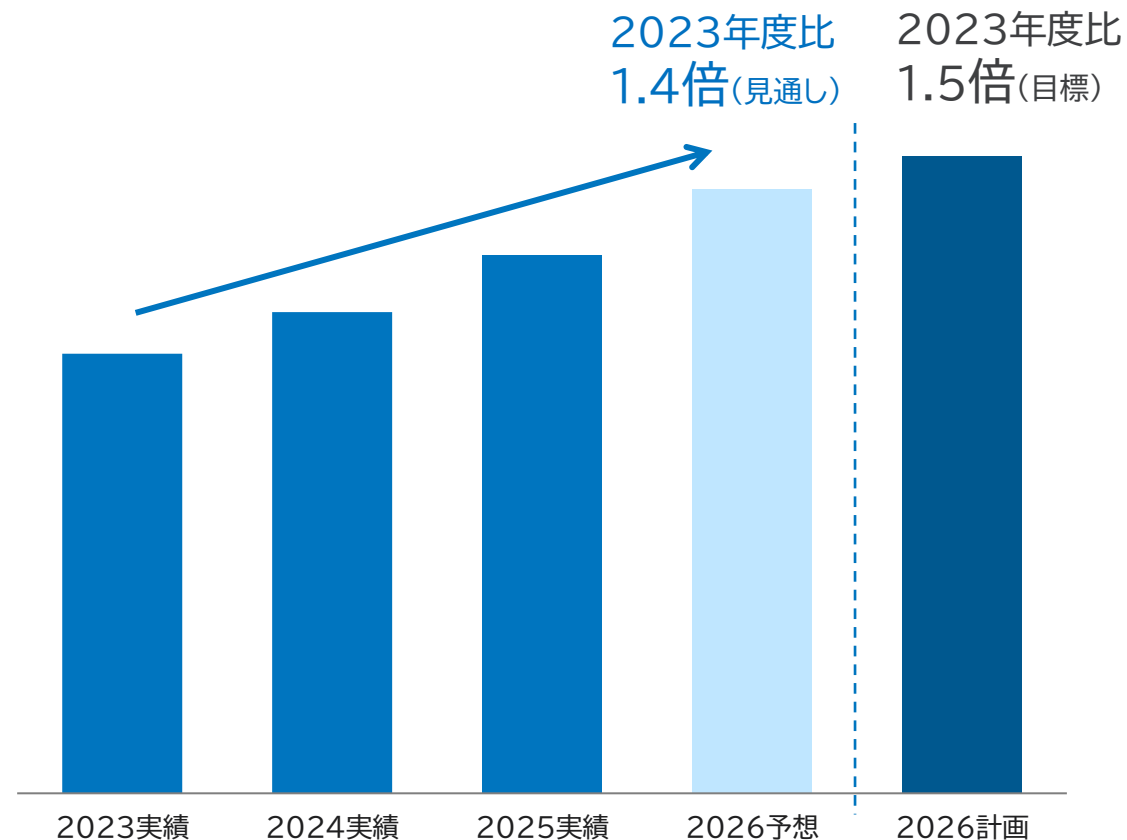
- 光学樹脂ポリマーの需要は好調
- レンズモノマーの新設備計画が進捗

### EL薬品



- 計画比で需要が下振れ、目標未達見込
- 半導体市場の伸びをとらえ、投資成果の刈り取りを急ぐ

ICT 3事業の売上高



# 施策1: Uniqueness & Presence事業の注力戦略②:ICT3事業の進展～電子材料～

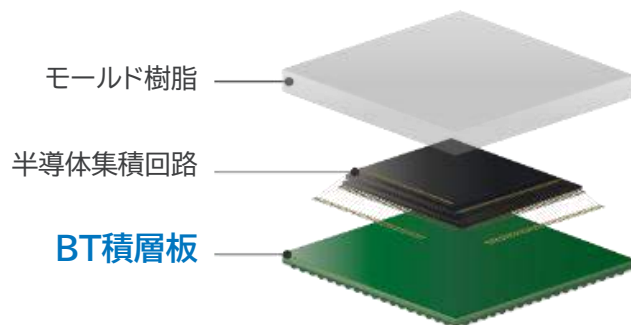


**BT材料:**タイ工場を計画通りに立ち上げ。次世代FC-BGA(ハイエンド品)などの用途展開を強化

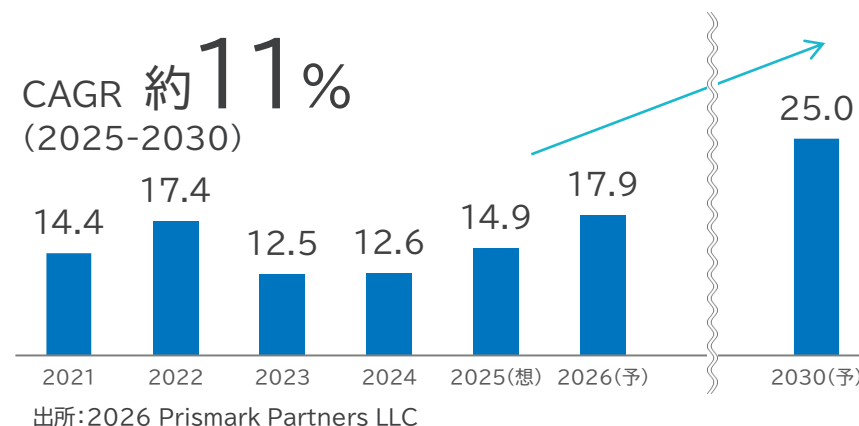
**OPE®:**生成AIサーバー向け基板材料として、計画を上回り伸長中。製造拠点の増設を検討中

- 市場拡大・タイ増産効果で2025年度は過去最高の売上高に。中計目標も達成見込み
- AI半導体周辺のFC-BGA用途向けもターゲットに、更なる拡販を推進

## BT積層板

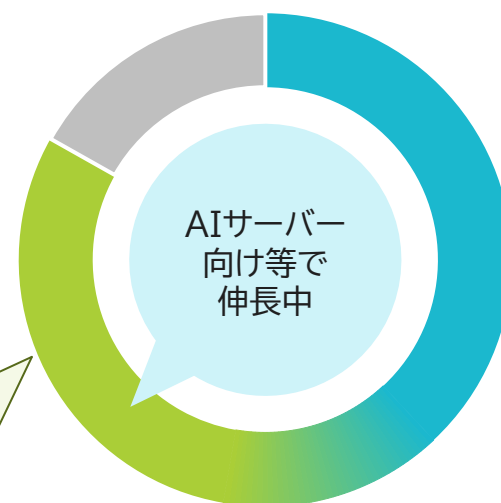


## 半導体パッケージ サブストレート市場見通し (US\$Bn)



## 最終用途別割合 (2026年度見通し)

### パソコン、サーバー等



### モバイル



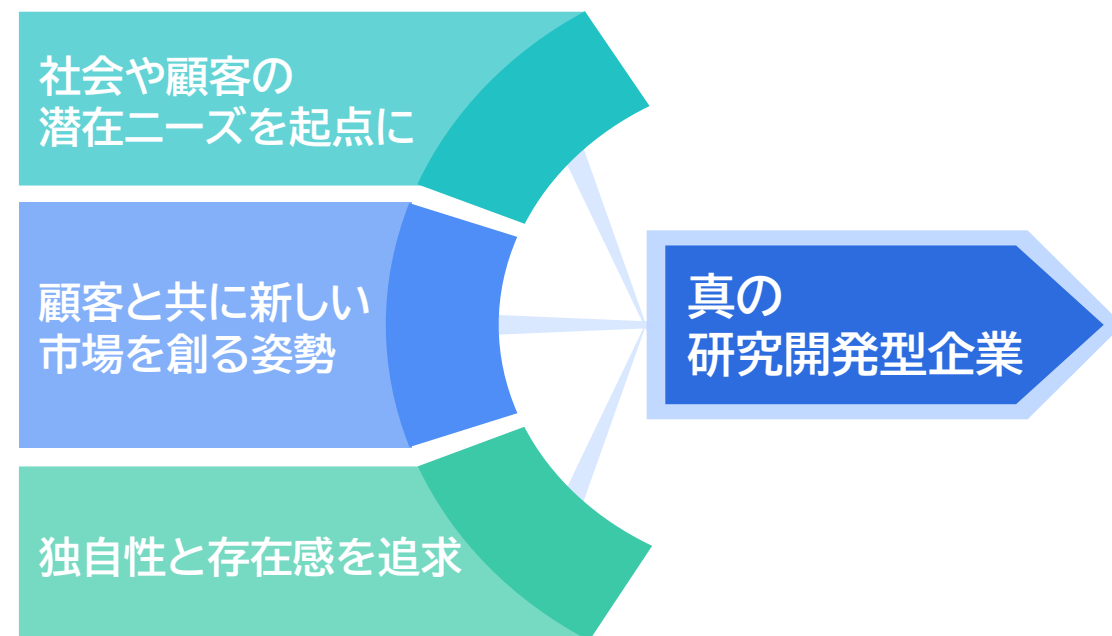
- 新規事業の創出に向けて、マーケットアウト型の「真の研究開発型企业」へのシフトを推進

### ありたい姿: マーケットアウト型の「真の研究開発型企业」

- 自社技術にこだわるだけでなく、社会や顧客の潜在的なニーズを起点に研究開発を行う
- 顧客と共に新しい市場を創る姿勢を持つ
- “ワンオブゼム”に陥らない独自性と存在感を追求する

#### 実現に向けた今後の取り組み

- 顧客の真のニーズを正しく理解し、対話を重ねながら、新しい製品群を顧客と共に創っていく「マーケットアウト」思考をグループ全体に浸透
- 培ってきた独自技術の自社開発力を、当社グループの競争優位の源泉として一層強化
- 顧客課題にフォーカスし、当社グループ内外の技術・製品群・知見をつなぎ合わせ、ソリューション志向のビジネス展開を加速



－ 厳しい市場環境のもと、各種構造改革を推進中。「事業ポートフォリオ強靱化タスクチーム」で、各種取り組みを加速

### 施策実施状況

- 不採算が継続していた鹿島工場PC生産設備について、2028年3月の停止を決定  
生産能力の適正化を推進(2028年3月末時点:約25%削減へ)
- 協業先からのPC引き取り契約は、2028年3月末を以って契約終了へ
- 中国拠点:高付加価値戦略(中国EV向け販売増等)・コスト削減が進展、計画比で採算改善
- シートフィルム生産拠点集約化(MGCフィルシート大阪工場撤退):計画どおり2026年3月末に完了
- MEP再編効果の発現は道半ば



### 今後の取組み

- 引き続き厳しい事業環境が続く前提に立ち、抜本的な構造改革を推進
- 「事業ポートフォリオ強靱化タスクチーム」での議論を継続。PC系チェーンで資本コストを上回るROICの道筋を描く
- 海外販売拠点の再構築と技術サービス・R&D体制の再編等を推進。MEP再編効果の発現を急ぐ
- 中国拠点の高付加価値戦略・コスト削減を推進
- 生産集約が完了したシートフィルム事業は、ターゲット分野を絞り込み、更なる採算改善を図る

### 施策3: 重点管理事業の再構築② キシレン分離・誘導品

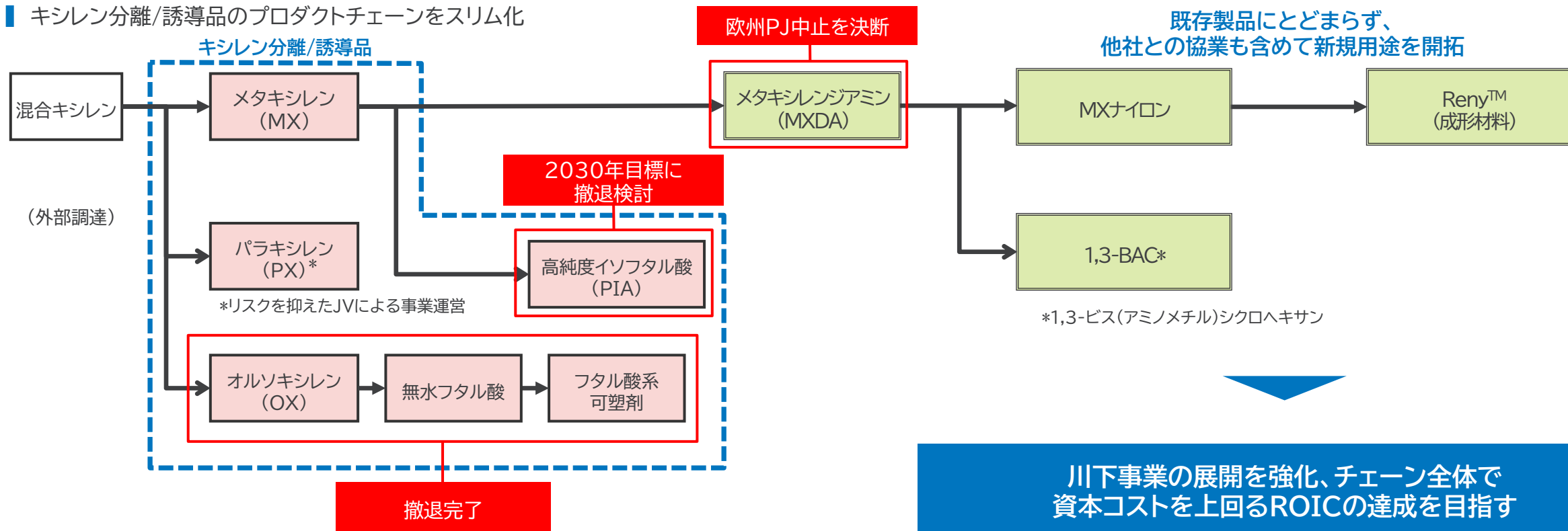
#### 施策実施状況

- OXチェーンの撤退完了
- 欧州MXDA計画中止を決断、MXチェーン全体の収益改善施策を検討中

#### 今後の取り組み

- 事業ポートフォリオ強化タスクチームで、抜本的な収益改善策（PIAの撤退検討等）を集中して議論・実行

#### ■ キシレン分離/誘導品のプロダクトチェーンをスリム化



## 「資本コストや株価を意識した経営」の推進

- 2025年度は、「事業ポートフォリオ強靱化」、「資本コスト低減」、「積極的な株主還元の継続」を3本柱とする以下の各施策を実行し、資本コストや株価を意識した経営を推進
- 直近はPBR1倍超を回復。電子材料への成長期待も追い風となり、企業価値は拡大
- 業績面では、2025年度は事業構造改革に伴う減損損失計上等により、ROEはマイナス、ROICは資本コストを下回る結果となったものの、2026年度は電子材料の旺盛な需要継続に加え、一連の構造改革の進捗や、原材料コスト上昇の売価転嫁等もあり、ROIC・ROEは改善を見込む

### 事業PF強靱化に向けた取り組み

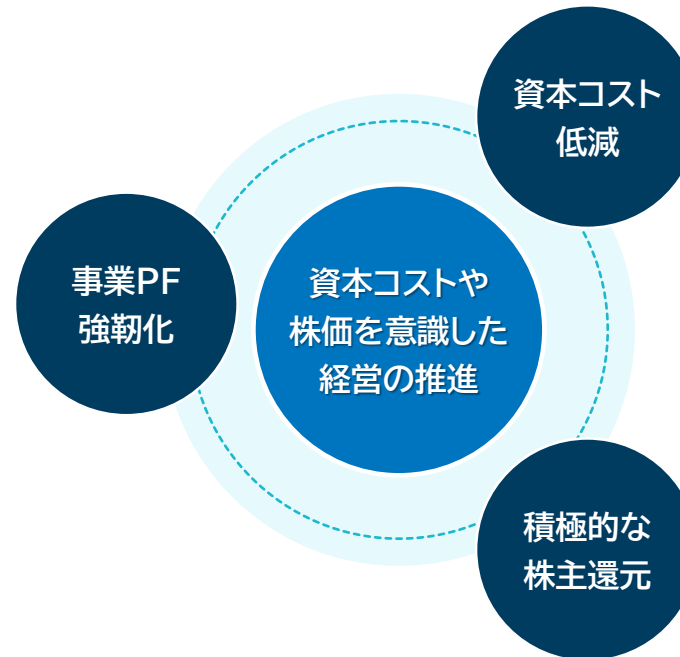
#### ● ROIC・ROE向上策の推進

##### →事業PF強靱化施策の着実な実行

- ・欧州MXDA建設中止決定
- ・鹿島工場PC生産停止決定
- ・PCシートフィルム生産拠点の集約化完了
- ・投資規律の強化
- ・聖域なきコスト削減

##### →成長投資刈り取りへの移行

- ・BT材料:タイ工場増設完了
- ・EL薬品:北米各拠点増設進行中
- ・レンズモノマー:新設備建設進行中



### 資本コスト低減に向けた取り組み

- アセットライト化の推進  
→非事業用資産・政策保有株式の売却
- 投資家・アナリストとの対話  
→増加する取材依頼への対応強化
- 財務レバレッジの活用
- サステナビリティ経営の推進

### 積極的な株主還元に向けた取り組み

- 「総還元性向50%」を中期的な目安に
- 「累進配当方針」に沿った配当政策
- DOE 3.0%を目標値に(現中計期間中)

##### →年間配当:

2025年度 100円 (対前年比+5円増配)  
2026年度 110円(予定) (対前年比+10円増配)

## 2026年度および次期中計に向けた取組み

- 「利益率」「ROIC」を意識した経営を徹底し、事業ポートフォリオ強靱化タスクチームによる「事業ポートフォリオ変革」を断行
- 次期中計を見据え、「変革」を加速。成果創出フェーズへ早期に移行

### 今後のアクションプラン=事業ポートフォリオ「変革」の弛まぬ断行

#### 事業ポートフォリオ「変革」の絶え間ない断行:

- ✓ 社長をトップとする「事業ポートフォリオ強靱化タスクチーム」で「抜本的な構造改革」の着実な実現を追求
- ✓ データ・ファクトに基づく「データドリブン経営」の下、BMU単位で「利益率」「ROIC」を意識した経営を徹底
- ✓ AI・半導体分野等、当社グループが「勝てる」「伸びる」領域へ経営資源を重点的に配分

**投資成果の刈り取り:** 次期中計期間も見据え、これまで実行した投資を梃子に、AI・半導体需要を積極的に取り込み

**投資規律の強化:** 投資提案時・実行時のモニタリング強化。投資採算性指標の再整備

**新規事業の創出:** 顧客の潜在的なニーズを起点に研究開発を行うマーケットアウト型の「真の研究開発型企业」への転換

「Uniqueness & Presence」を軸としたエクセレントカンパニーへ



# 4. 株主還元

## 中期経営計画期間の株主還元方針

- － 今中計より株主還元を一層強化。累進配当\*を採用し、総還元性向を引き上げ

\* 中計3年間の期間を対象。原則、減配を実施せず、配当維持または増配を行う。

- ① **累進配当方針(原則、減配を実施せず、増配または維持)を採用**  
2009年度以降、減配をせず安定的に配当を引き上げてきたが、新中計でより明確化
- ② **総還元性向を前中計の「40%目安」から「50%目安」に引き上げ**  
機動的に自己株式を取得し、資本効率の向上を図る
- ③ **DOE(自己資本配当率)は3.0%を目標値に**

### これまでの株主還元方針(~2023年度)

- － 安定配当の継続
- － 総還元性向40%を目安
- － 機動的な自己株式取得を実施



### 中計期間の株主還元方針

- － **「累進配当方針」を採用**  
(原則、減配を実施せず、増配または維持)
- － **「総還元性向」を50%目安に引き上げ**  
(機動的な自己株式取得を強化、追加還元策として柔軟に実施)
- － **DOEは3.0%を目標値に**

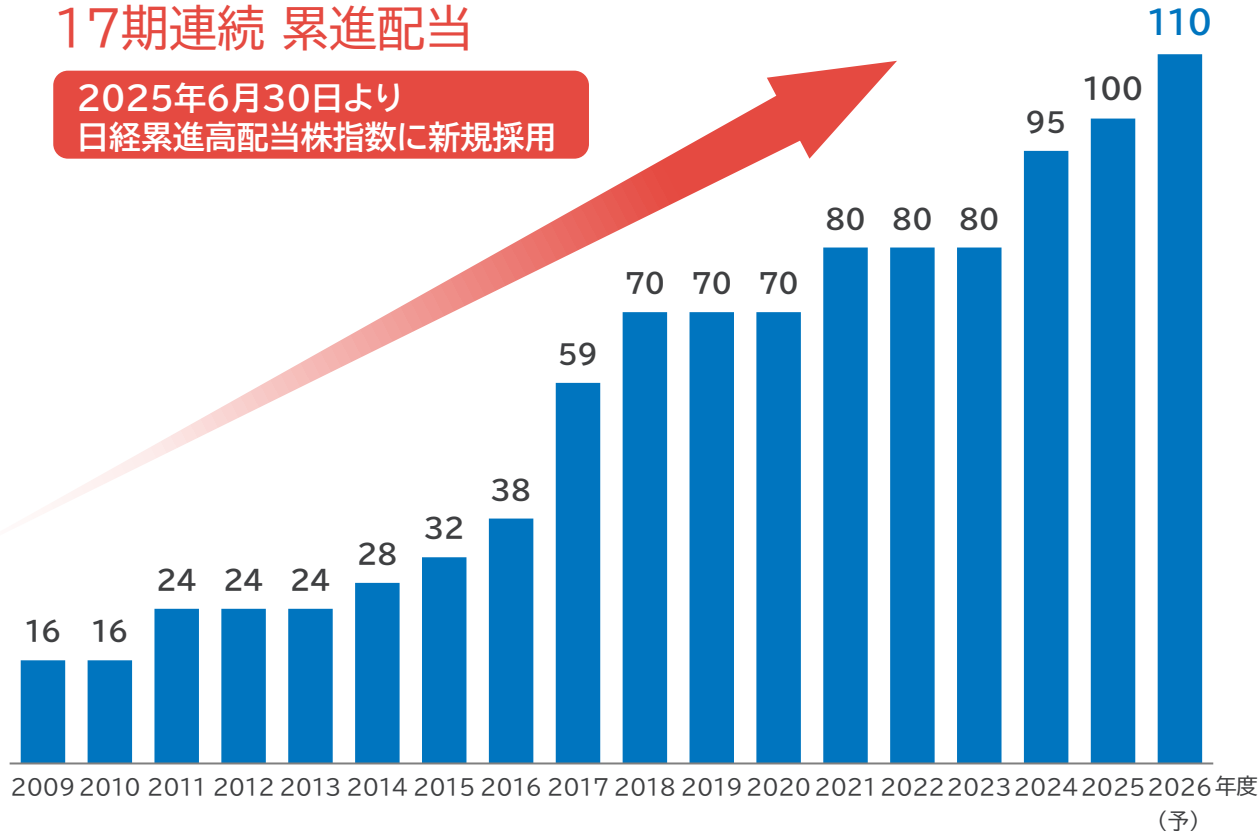
## 株主還元実績・予想

- 財務健全性を担保しつつ、財務レバレッジの活用を含めたBSコントロールの強化等、資本コスト低減に向けた取り組みを推進
  - 2025年度は純損失となったが、引き続き財務健全性は確保。年間配当は前年度比5円増配の100円
  - 2026年度の年間配当金は110円を予想(普通配当ベースで10円の増配)。今後も積極的に株主還元に取り組んでいく

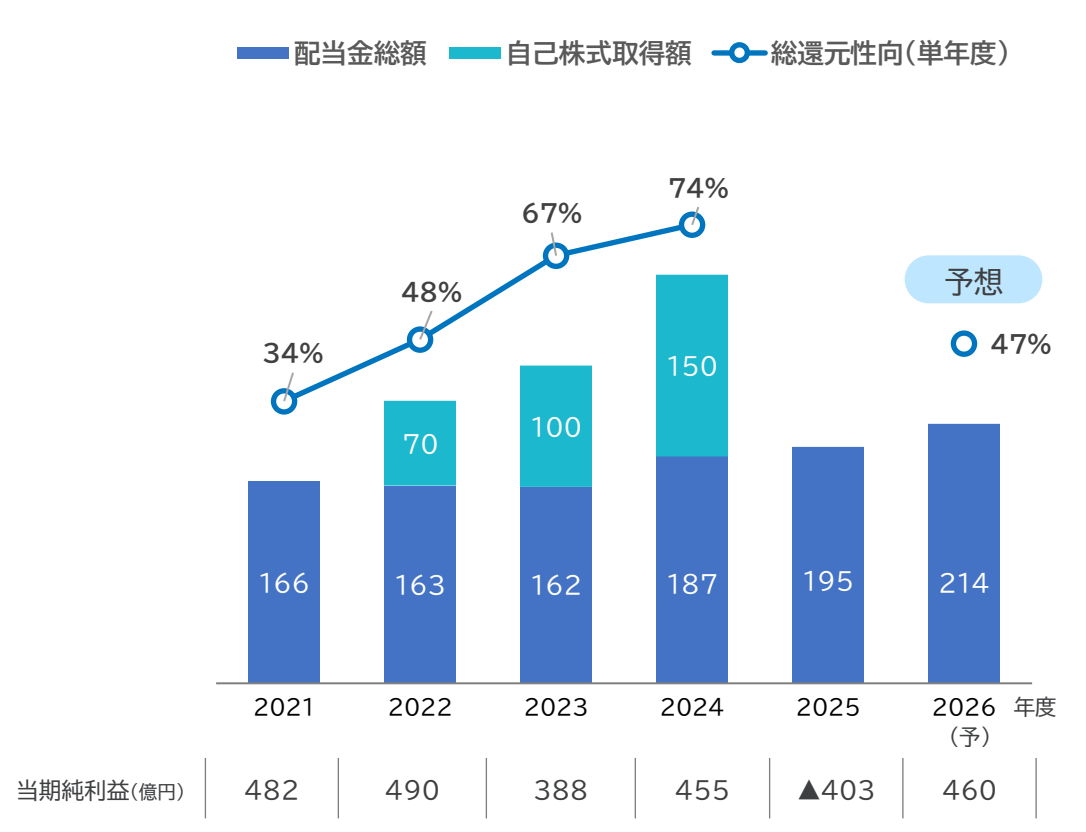
### 一株当たり配当金の推移(円)

#### 17期連続 累進配当

2025年6月30日より  
日経累進高配当株指数に新規採用



### 株主還元の推移(億円・%)





# 参考資料



# 主なIRコミュニケーションツール

– IRサイトや決算説明会資料、統合報告書など、幅広いIRコミュニケーションツールを展開

## IRサイト

IRサイトランキングでは高評価を獲得



## 決算説明資料(年4回)



## 株主通信誌(年2回)



## 統合報告書(年1回)



## IRメール配信サービス



適時開示やIRに関する最新情報について、メールでお知らせいたします。

ぜひご登録ください。



## 機能化学品事業部門

### 機能化学品

- 無機化学品
  - エレクトロニクスケミカルズ  
(超純過酸化水素、ハイブリッドケミカル)
  - 過酸化水素等
- エンジニアリングプラスチック
  - ポリカーボネート/シートフィルム、ポリアセタール等
- 光学材料
  - 光学樹脂ポリマー、超高屈折レンズモノマー等

### 特殊機能材

- 電子材料
  - 半導体パッケージ用BT材料等
- 生活衛生ソリューションズ製品
  - 脱酸素剤:エージレス<sup>®</sup>、環境衛生薬品:ダイヤパワー等

## グリーン・エネルギー&ケミカル事業部門

### 天然ガス系化学品

- メタノール
- メタノール/アンモニア系化学品
  - アンモニア・アミン類
  - MMA系製品
  - ホルマリン・ポリオール系製品等
- エネルギー資源・環境事業

### 芳香族化学品

- MXDA
- 芳香族アルデヒド
- ポリマー材料(MXナイロン等)
- キシレン分離/誘導品
  - メタキシレン
  - 高純度イソフタル酸(PIA)等

\* 2025年4月の生活衛生ソリューションズ事業部の設立に伴い、無機化学品のうち環境衛生薬品(医療機器洗浄、飲料容器殺菌、公害対策薬剤)は特殊機能材の主要製品へ移動しました。

## セグメント別 連結 売上高・営業利益・経常利益推移



単位:億円	2024年度実績			2025年度実績			2026年度予想*		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期(予)	下期(予)	通期(予)
<b>売上高</b>	3,881	3,854	7,735	3,616	3,765	7,382	4,200	4,200	8,400
GEC	1,639	1,592	3,231	1,411	1,458	2,869	1,789	1,745	3,534
機能化学品	2,229	2,212	4,441	2,199	2,284	4,483	2,382	2,436	4,819
全社/調整	12	49	62	6	23	29	28	18	46
<b>営業利益</b>	337	170	508	251	201	452	280	310	590
GEC	101	26	127	43	12	56	65	57	123
機能化学品	252	161	413	227	210	438	241	276	517
全社/調整	▲15	▲16	▲32	▲19	▲22	▲41	▲27	▲23	▲51
<b>経常利益</b>	374	228	603	314	204	519	310	350	660
GEC	142	62	205	62	▲23	38	80	97	177
機能化学品	258	180	439	260	230	491	249	276	526
全社/調整	▲27	▲13	▲41	▲7	▲2	▲10	▲19	▲23	▲43

\* 2026年5月13日公表

## セグメント別 2024年度及び2025年度 四半期別推移



単位:億円	2024年度実績				2025年度実績			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
<b>売上高</b>	1,881	2,000	1,950	1,904	1,779	1,837	1,877	1,887
GEC	783	855	804	787	682	728	755	702
機能化学品	1,092	1,136	1,134	1,078	1,089	1,110	1,120	1,163
全社/調整	4	8	10	38	8	▲1	2	21
<b>営業利益</b>	157	180	115	55	109	141	126	74
GEC	41	60	28	▲2	19	23	29	▲16
機能化学品	126	126	99	62	96	130	105	104
全社/調整	▲9	▲6	▲12	▲4	▲6	▲12	▲8	▲13
<b>経常利益</b>	179	194	164	64	138	176	166	37
GEC	45	97	41	21	39	23	31	▲55
機能化学品	139	119	126	54	99	160	126	104
全社/調整	▲5	▲22	▲2	▲10	▲0	▲7	9	▲11

## 各種指標



単位:億円	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度 (予)
設備投資額 [上期]	309 [139]	392 [186]	423 [224]	402 [158]	547 [220]	646 [312]	817 [380]	887 [397]	719 [415]	610 [260]
減価償却費 [上期]	270 [131]	274 [135]	295 [144]	306 [151]	319 [158]	335 [161]	363 [183]	346 [168]	382 [185]	410 [190]
研究開発費 [上期]	189 [95]	186 [91]	196 [94]	199 [98]	210 [101]	235 [111]	256 [126]	261 [127]	266 [124]	310 [165]
年度末人員(人)	8,009	8,276	8,954	8,998	9,888	10,050	7,918	8,146	8,319	8,496
EBITDA*1	1,088	976	616	817	1,070	1,050	849	973	928	1,109
U&P事業 営業利益	314	250	297	374	423	418	406	515	452	580
ROE(自己資本当期利益率)(%)	13.6	11.3	4.3	7.1	8.8	8.3	6.1	6.9	-	7.1
ROIC(投下資本利益率)*2(%)	12.1	9.5	3.6	6.2	7.4	6.4	3.3	6.4	3.2	6.0
売上高営業利益率(%)	9.9	6.4	5.6	7.5	7.8	6.3	5.8	6.6	6.1	7.0
一株当たり当期純利益 (円/株)	281.39	257.46	100.50	173.41	232.15	239.08	190.97	228.93	▲207.04	236.06
一株当たり配当金*4(円/株) [うち中間配当]	59.00 [24.00]	70.00 [35.00]	70.00 [35.00]	70.00 [35.00]	80.00*3 [45.00*3]	80.00 [40.00]	80.00 [40.00]	95.00 [45.00]	100.00 [50.00]	110.00 [55.00]
総還元性向 (%)	32.5	27.2	111.4	40.4	34.5	47.9	67.5	74.1	-	46.6

\*1 EBITDA=経常利益+減価償却費+支払利息 \*2 ROIC=(営業利益-法人税等+持分法損益)/投下資本 \*3 記念配当10円を含む

- 当社は、CSR・IR部 IRグループを主担当部署として、以下の通り株主を含めた機関投資家やセルサイド・アナリスト、個人投資家の皆様方などとの対話を実施しております。

### 2025年度のIR活動

	実績	内容
決算説明会	4回	四半期毎にアナリスト・機関投資家向け決算説明会を開催
個別取材	約320件	株主を含む機関投資家・アナリスト等との定期的な面談を実施
海外機関投資家向けIR	54件	証券会社主催のカンファレンスへの参加や海外ロードショーにより、海外機関投資家と対面またはwebでの個別面談を実施
ESG面談及びスチュワードシップコード面談	9回	投資家とのESGエンゲージメントやSR対話を実施
機関投資家向けIRイベント	5回	経営概況説明会、事業説明会、工場見学会、等を開催
スモールミーティング	2回	アナリスト・国内外機関投資家と経営層との意見交換会を開催
個人投資家説明会	2回	個人投資家説明会を対面・オンライン形式で開催

### 2025年度のIR活動の様子



経営概況説明会



個人投資家説明会

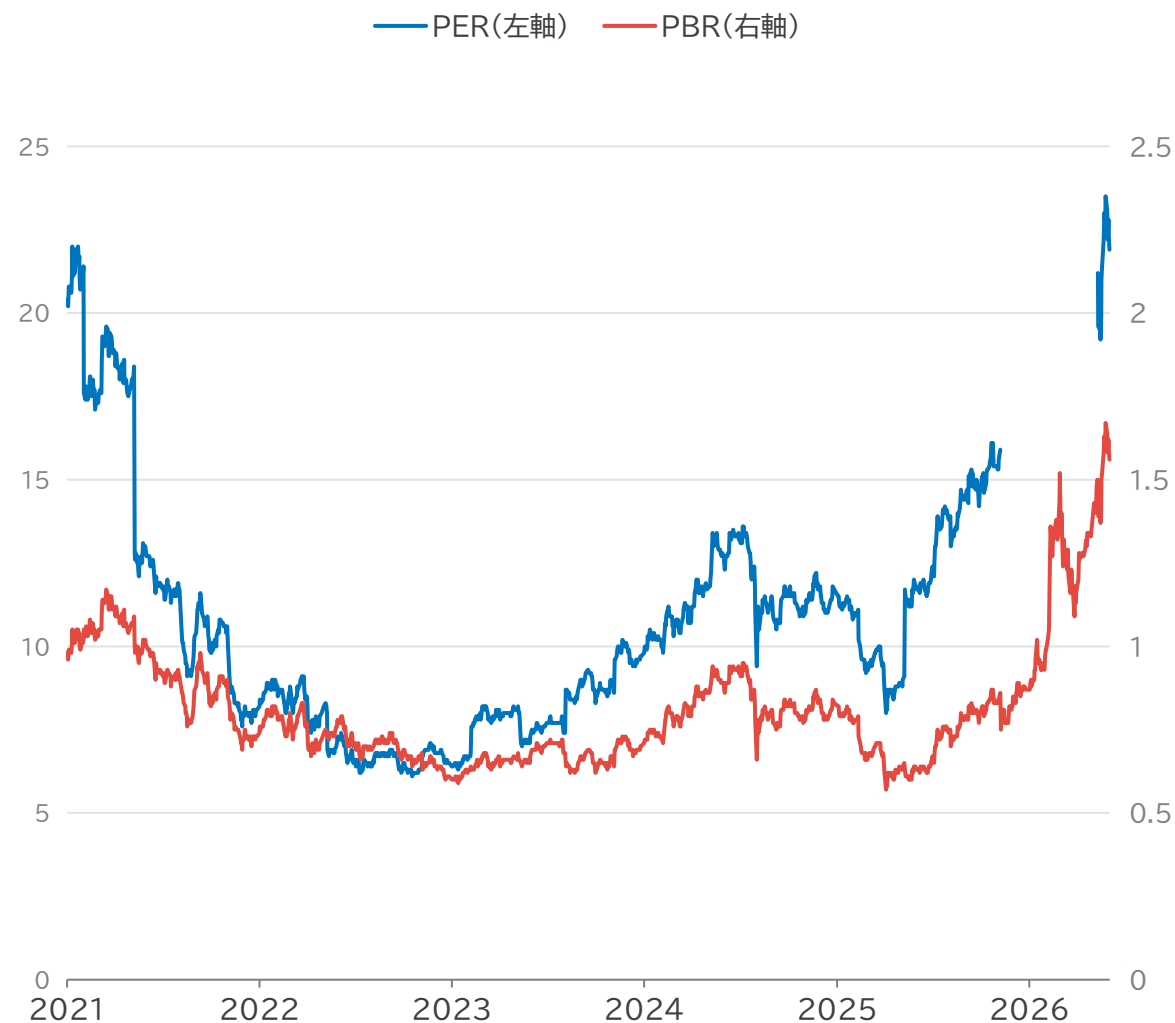


アナリスト・機関投資家向け工場見学会

■ 三菱ガス化学 株価動向



■ 三菱ガス化学 PER・PBR動向



※PERについて、2025/11/11~2026/5/12の期間は予想1株当たり当期純利益がマイナスとなったため、一部が空白表記となっております

## 見通しに関する注意事項

当資料に記載されている計画、目標等の将来に関する記述は、作成時点において当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて判断したものであり、不確実性を内包するものです。実際の業績等は、様々な要因によりこうした将来に関する記述とは大きく異なる可能性があります。

 三菱ガス化学株式会社

CSR・IR部 IRグループ

TEL : 03-3283-5041 URL : <https://www.mgc.co.jp/ir/>



IRメール配信サービス

適時開示やIRに関する最新情報について、  
メールでお知らせいたします。ぜひご登録ください。